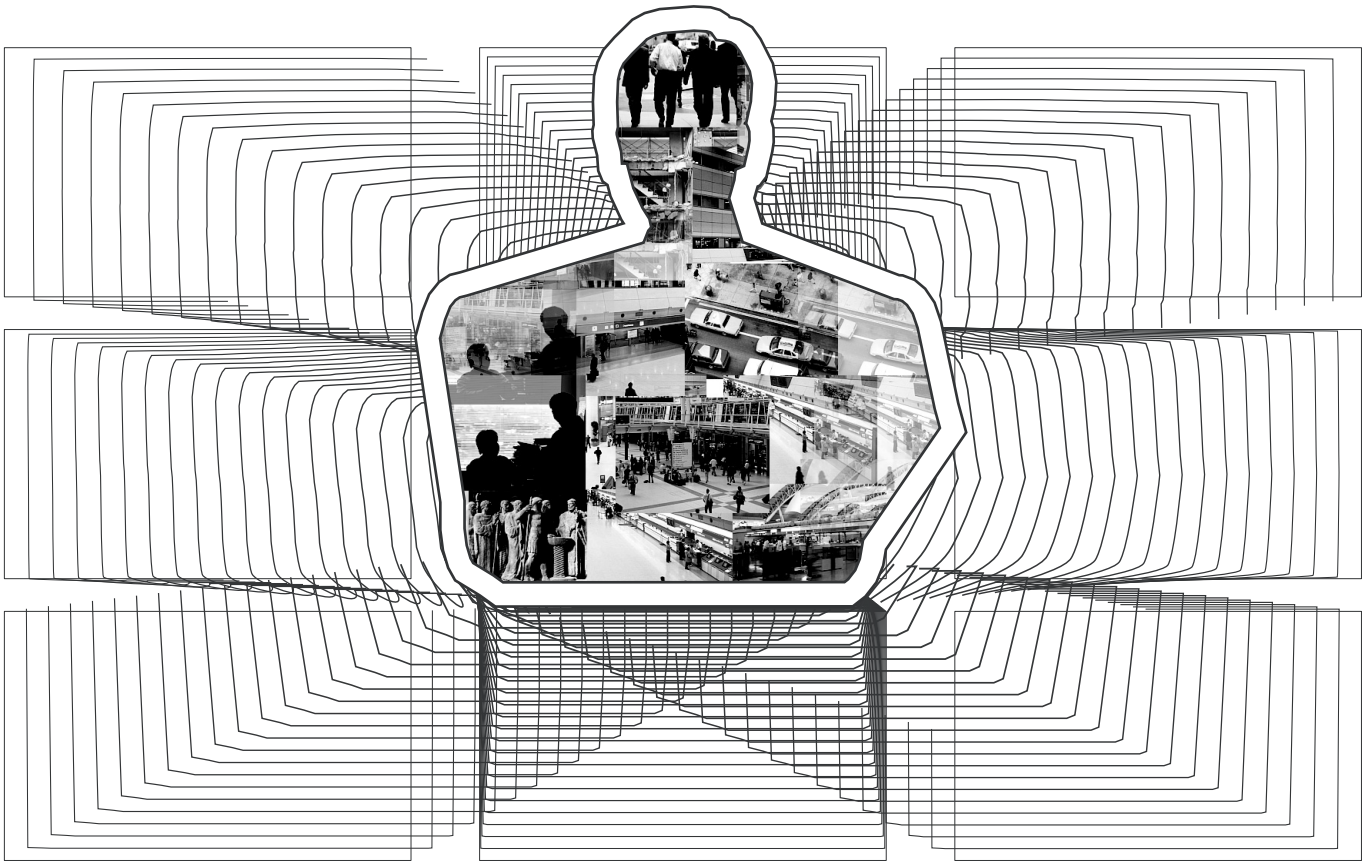
取扱説明書

SANYO

ネットワーク接続による
遠隔操作マニュアル

ご使用前にこの取扱説明書と本体取扱説明書（品番：VDH-F1620, F920, F620用）をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
また、後々のために『保証書』とともに大切に保管してください。



目次

はじめに 2
■ ネットワーク操作の特長 2
■ 動作環境 2

ネットワーク接続の手順 3
1 レコーダーのネットワーク設定 3
2 コンピュータの TCP/IP 設定 3
3 ネットワーク操作画面の表示 5
■ ネットワーク接続の制限 6
■ レコーダーの操作に切り換える 6

メイン画面の構成と各部のはたらき 7
■ メイン画面の構成 7
1 操作パネルの機能とユーザーレベル 8
2 動作モード表示パネル 9

ライブ映像を見る 10
1 ライブ映像の表示パターンを切り換える 10
2 映像の表示モードを設定する 11
3 音声を再生する 11

ライブ映像を記録する 12
■ 通常記録（通常記録領域） 12
■ その他の記録方法について 12

記録映像を見る 13
■ 記録映像を再生する 13
■ 再生の基本動作について 13

記録映像を検索する 14
■ サーチ画面の選択 14
1 アラームサーチ 14
2 アラームサムネイルサーチ 14
3 日時サーチ 15
4 バックアップ領域サーチ 15
5 モーション検出サーチ 16

映像を保存する 17
A ライブ映像をコンピュータに保存する 17
B 記録映像をレコーダーのバックアップ領域にコピーする 18
C 記録映像をコンピュータにダウンロードする . . . 19
D 画像ファイルの保存形式 20

ドームカメラを操作する 21

基本メニューをネットワーク操作で設定する 22
基本設定メニューのあらまし 22
基本メニューの設定手順 23

初期設定 24
A 時刻設定 24
B 外部時刻設定 24
C 休日設定 24

記録設定 25
A 記録領域設定 25
B 記録条件設定 26
C 通常記録設定 27
D プログラム記録設定 28
E タイマー設定 28
■ タイマー設定例 29
F アラーム記録設定 30

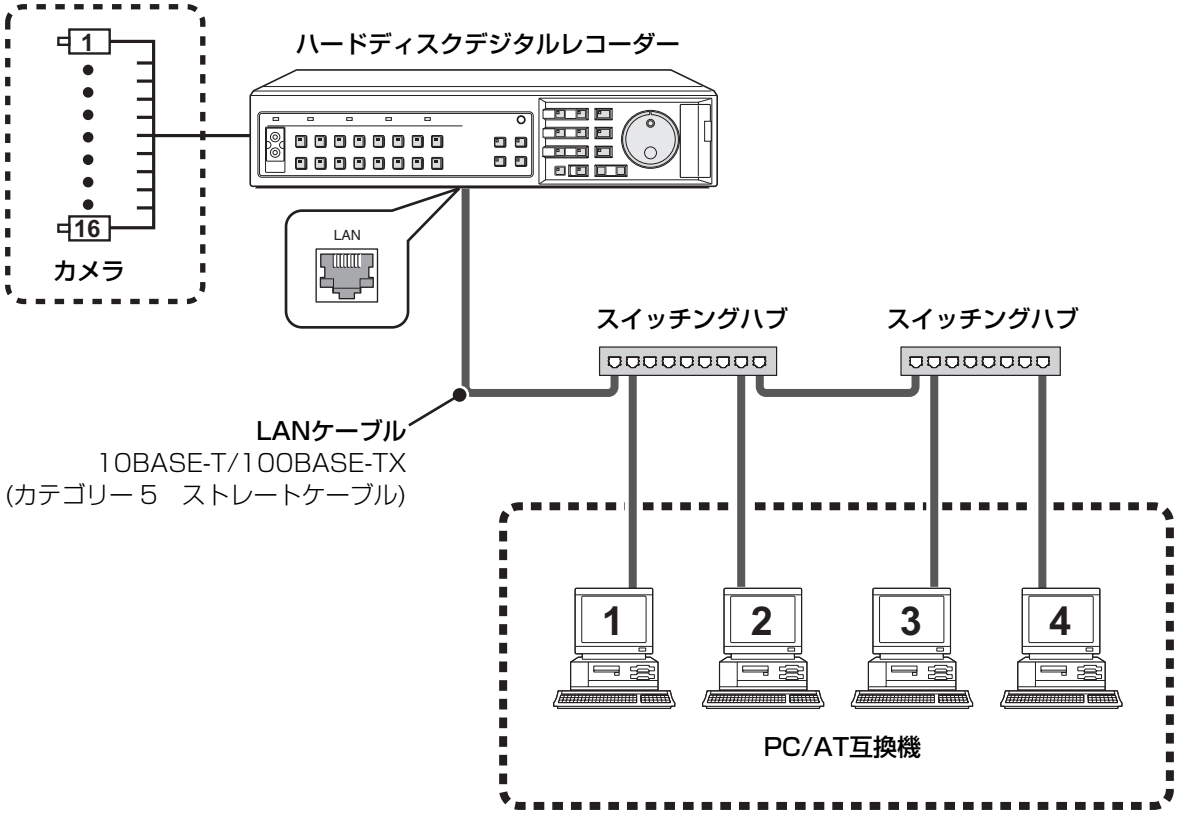
一般設定 32
A データ表示設定 32
B ブザー設定 32
■ コンピュータでのブザー設定 33
C ハードディスク設定 33
D ネットワーク設定 34
E RS-485設定 34

画面設定とレコーダー情報 35
A マスク設定 35
B 停電情報／使用時間 35
C 初期化履歴 35

DVR Viewer2 36
■ 動作環境 36
■ Viewerソフトのインストール 36
■ インターネットオプションの設定 36
■ Viewerソフトの起動と終了 36
■ 画面の構成と各部のはたらき 37
■ 画像ファイルを開く 38
■ 画面の表示パターンを切り換える 39
■ 画面に表示するチャンネルを選択する 39
■ Viewer操作パネルの機能 40
■ 画像の保存、印刷 41
■ 日付の表示形式を設定する 41

はじめに

コンピュータと本機ハードディスクデジタルレコーダー（以下、レコーダーと言います）をLANケーブルで接続してください。コンピュータからレコーダーをネットワーク操作することができます。



LANケーブルの種類は接続方法によって異なります。
詳細はレコーダーの取扱説明書「ネットワーク端子の接続（LAN)」の項（P11）をご参照ください。

■ネットワーク操作の特長

- レコーダーの動作条件の設定やライブ映像の閲覧、記録、再生などの標準機能をコンピュータのWebブラウザを使って遠隔操作できます。
- １台のレコーダーに対し、最大４台のコンピュータが同時接続できます。
- ユーザーの操作権限は３段階で設定できます。接続の際にはパスワードでチェックを行ないます。
- レコーダーとネットワークの操作は簡単に切り換えることができます。
- コンピュータの表示画面を切り換えたり、再生などの操作をおこなっても、レコーダーのライブ映像には影響を与えません。

■動作環境

- **CPU**：Pentium® IV（2 GHz）以上
- **RAM**：256MB以上（512MB以上を推奨）
- **対応OS**：Windows® 2000/Windows® XP
- **対応機種**：上記のOSが動作するPC/AT互換機
- **ディスプレー**：XGA（SXGA以上を推奨)、カラー65536色以上
- **音声**：DirectXと互換性のあるサウンドカード、スピーカー
- **ブラウザ**：Microsoft® Internet Explorer Ver5.5 SP2以上

著作権について

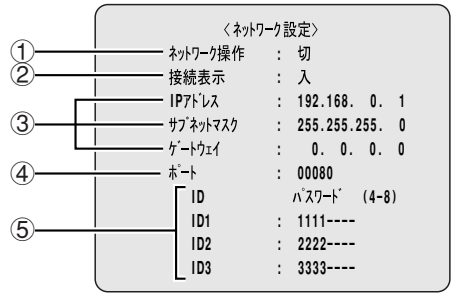
- このマニュアルは三洋電機株式会社の著作物です。
- Windows、Internet Explorerは米国およびその他の国における米国Microsoft Corporationの商標もしくは商標登録です。
- Pentiumは米国およびその他の国における米国Intel Corporationとその系列会社の商標もしくは商標登録です。
- IBMならびにIBM PC/ATは、米国IBM International Business Machines Corporationの商標です。
- このマニュアルで使用されているその他のすべてのブランドや商品名はそれぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

ネットワーク接続の手順

レコーダーをネットワーク操作する場合は、レコーダーとコンピュータの設定をおこなってから、コンピュータのWebブラウザで接続操作をおこなってください。

1 レコーダーのネットワーク設定

ネットワーク接続に対応できるように、レコーダーの一般設定メニューから「**ネットワーク設定**」を選択して、以下の設定をおこなってください。詳細はレコーダーの取扱説明書をご参照ください。



① ネットワーク操作

ネットワーク操作を行なう場合は“**入（ネット優先）**”または“**入（本体優先）**”に切り換えてください。

選択項目：

- **入（ネット優先）：**
  ネットワーク操作を優先します。すべてのユーザー（ID1～ID3）の接続が可能です。
- **入（本体優先）：**
  レコーダー側の操作を優先します。ネットワーク接続できるユーザーはID1だけに限定されます。
- **切：**
  ネットワーク操作はできません。

② 接続表示

ネットワーク接続中に、レコーダーの接続モニターに“**ネットワーク接続中**”のメッセージを表示するかの設定をします。

③ IPアドレス／サブネットマスク／ゲートウェイ

それぞれ、“0～255”の範囲で設定します。

ネットワーク設定に必要なIPアドレスやサブネットマスクなどはネットワーク管理者にご相談ください。

④ ポート

通常は“80”に設定します。

⑤ パスワード

操作権限に応じて、独自のパスワードを設定できます。

IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、ポート、パスワードの設定は、ネットワーク操作でも変更できます。(P34参照)

2 コンピュータのTCP/IP設定

ご使用になるコンピュータに対し、それぞれのOSに応じたTCP/IPを設定してください。

以下の設定例は、Microsoft® Windows XPの場合です。

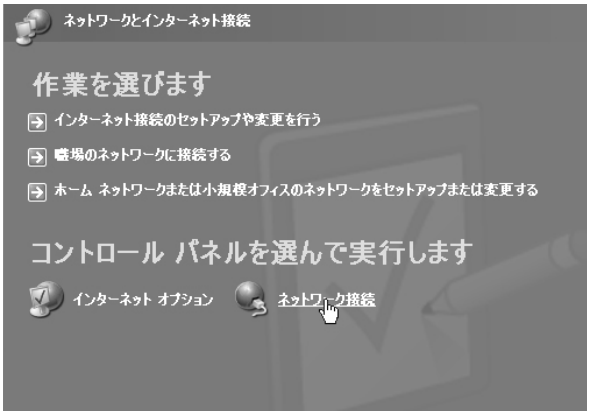
1 [コントロールパネル] の [ネットワークとインターネット接続] をクリックする

「ネットワークとインターネット接続」の画面が表示されます。

2 [ネットワーク接続] をクリックする

「ネットワーク接続」の画面が表示されます。

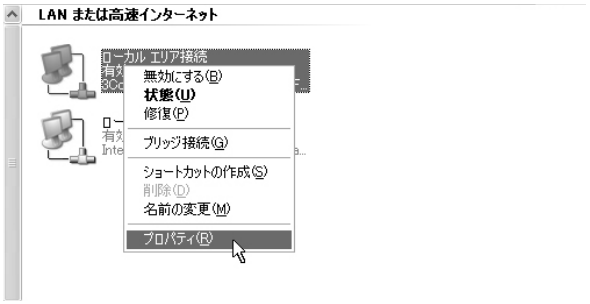
使用するLANカード（イーサネットアダプタ）の設定が［LANまたは高速インターネット］の欄に表示されます。



ネットワーク接続の手順

3 使用するLANカード（イーサネットアダプタ）の設定を右クリックし、メニューから［プロパティ］を選択する

［ローカルエリア接続のプロパティ］の［全般］タブが表示されます。



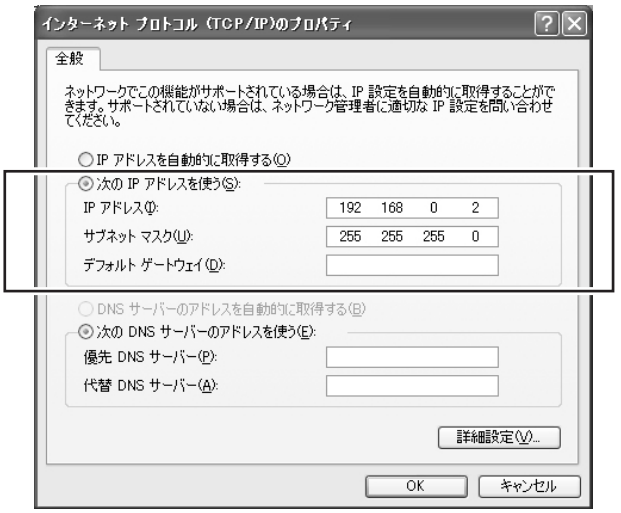
4 ［この接続は次の項目を使用します］の一覧から“インターネットプロトコル（TCP/IP）”を選択する

“**インターネットプロトコル（TCP/IP）**”にチェックが入っていることを確認してください。チェックが入っていなければチェックを入れてください。

5 ［プロパティ］をクリックする

［インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ］の［全般］タブが表示されます。

6 ［次のIPアドレスを使う］を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力する



7 設定内容を確認し［OK］をクリックする

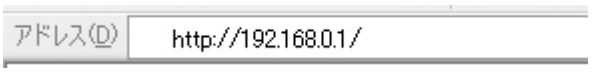
TCP/IPの設定を完了します。表示されているダイアログをすべて閉じてください。

ネットワーク接続の手順

3 ネットワーク操作画面の表示

レコーダーとコンピュータの設定が終わったら、コンピュータでWebブラウザを起動してください。対応ブラウザはMicrosoft® Internet Explorer Ver.5.5 SP2以上です。
以下の手順でコンピュータをレコーダーに接続すると、ネットワーク操作画面に切り換わります。

1 ブラウザのアドレスバーに接続用のURLを入力する



http://の後に「ネットワーク設定」で設定した“レコーダーのIPアドレス”を入力して、[Enter]キーを押してください。認証チェックのダイアログが表示されます。

ポートを初期値の“80”以外に設定した場合は、IPアドレスの後に“:（コロン）”とポート番号を付け加えてください。

＜ポートを“81”に設定した場合の入力例＞

http://192.168.0.1:81/

2 ユーザー名とパスワードを入力して OK をクリックする

ユーザー名とパスワードを正しく入力するとレコーダーへの接続が完了し、オープニング画面が表示されます。

- 大文字と小文字の区別はチェックされません。
- ユーザー名とパスワードの入力後に［パスワードを記憶する］にチェックを入れておくと、次回以降は接続時のパスワードの入力を省略できます。
- 認証チェックのダイアログは、接続後に権限外の操作をおこなった場合にも表示されますので、接続状態を維持したままでユーザーレベルを上げることも可能です。ただし、同時接続数の制限やネットワーク設定による接続権限の制約がある場合を除きます。（P6参照）

3 オープニング画面の OK をクリックする

メイン画面に切り換わり、コンピュータからネットワーク操作ができるようになります。

- **レコーダーの時刻設定について**
  レコーダーに現在の日時が正しく設定されていないと、記録やカメラコントロールなどの基本操作ができません。時間や日付に関するその他のメニュー設定にも支障をきたしますので、レコーダーに初めて接続したときには、現在の日時がレコーダーに正しく設定されているかどうかを「時刻設定」画面で確認してください。（P24参照）
- レコーダーの「ネットワーク設定」で［接続表示］が“入”のときは、ネットワーク操作に切り換わると、レコーダーの接続モニターに“ネットワーク接続中”のメッセージがオンスクリーンで表示されます。
- **Microsoft® Internet Explorerの使用中にJava Scriptの“Run Time Error”が表示された場合**
  ［ツール］→［インターネットオプション］→［詳細設定］の順にメニューを選択し、ブラウズの設定項目で“スクリプトエラーごとに通知を表示する”のチェックを外し、“スクリプトのデバッグを使用しない”にチェックを入れてください。
- **パソコンの性能や仕様により、映像が一部表示されない場合**
  Microsoft® Internet Explorerの［ツール］→［インターネットオプション］→“インターネット一時ファイル”の［設定］の順にメニューを選択し、［使用するディスク領域］を少なめに設定してください。

ネットワーク接続の手順

■ネットワーク接続の制限

ユーザーの接続状況やネットワーク設定の内容によっては、接続が制限されます。レコーダーに接続できない場合は、次の制限事項に該当していないかを確認してください。

ユーザーの同時接続数の制限

同時に接続できるユーザー数には制限があります。

① 1台のレコーダーに同時に接続できるユーザーは4人までです。

② ID2またはID3のユーザーはどちらか1人しか接続できません。

③ 接続が重複した場合は、ユーザーレベルの高いユーザーが優先されます。

例：

- ID1が4人接続中にID1が接続しようとした場合は、接続できない
- ID1が4人接続中にID2が接続しようとした場合は、一番最後に接続したID1が切断され、代わりにID2が接続される
- ID1が3人、ID2が1人接続中に、ID3が接続しようとした場合は、ID2とID3は同時接続はできないので、ID2が切断され、代わりにID3が接続される

同時接続数の制限によって接続できない場合は、“**レコーダーは使用中です！**”のメッセージが表示されます。

ネットワーク設定による制限

レコーダーの「ネットワーク設定」の［ネットワーク操作］の設定によって接続が制限されます。

①“入（ネット優先）”を選択した場合

- すべてのユーザー（ID1～ID3）が接続可能です。
- レコーダーでの再生、カメラコントロール、メニュー画面の表示中は接続できません。

②“入（本体優先）”を選択した場合

- ユーザーレベルID1だけが接続可能です。コンピュータ側ではライブ映像の閲覧だけが可能となります。
- レコーダーで再生操作中は接続できません。
- 接続中にレコーダーで再生操作をおこなうと、自動的に接続が切断されます。

③“切”を選択した場合

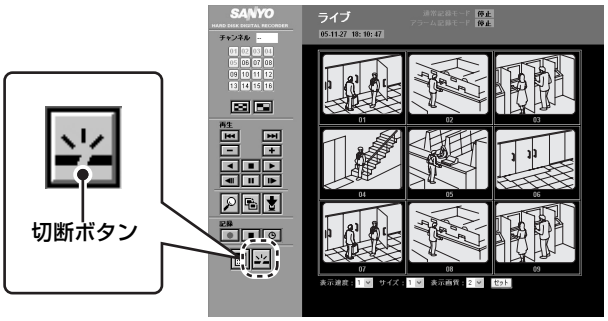
レコーダーには接続できません。

「ネットワーク設定」による操作制限、あるいはレコーダーの動作状態によって接続できない場合は、“**レコーダーと接続できません！**”のメッセージが表示されます。

■レコーダーの操作に切り換える

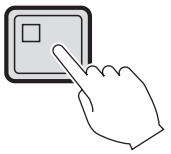
操作パネルの切断ボタンをクリックするとネットワーク接続が切断され、レコーダーの操作が可能になります。

接続が切断された場合は、“**レコーダーと切断されました！**”のメッセージが表示されます。



- **切断ボタンをクリックせずにブラウザを終了した場合は、再接続までに約1分かかります。**
- **レコーダーの「ネットワーク設定」の［ネットワーク操作］が“入（ネット優先）”に設定されている場合は、［終了／画面表示］ボタンを2秒以上押してください。レコーダーから強制的に接続を切断することができます。強制切断後の10秒間は、コンピュータからの接続を受け付けません。**

終了／画面表示

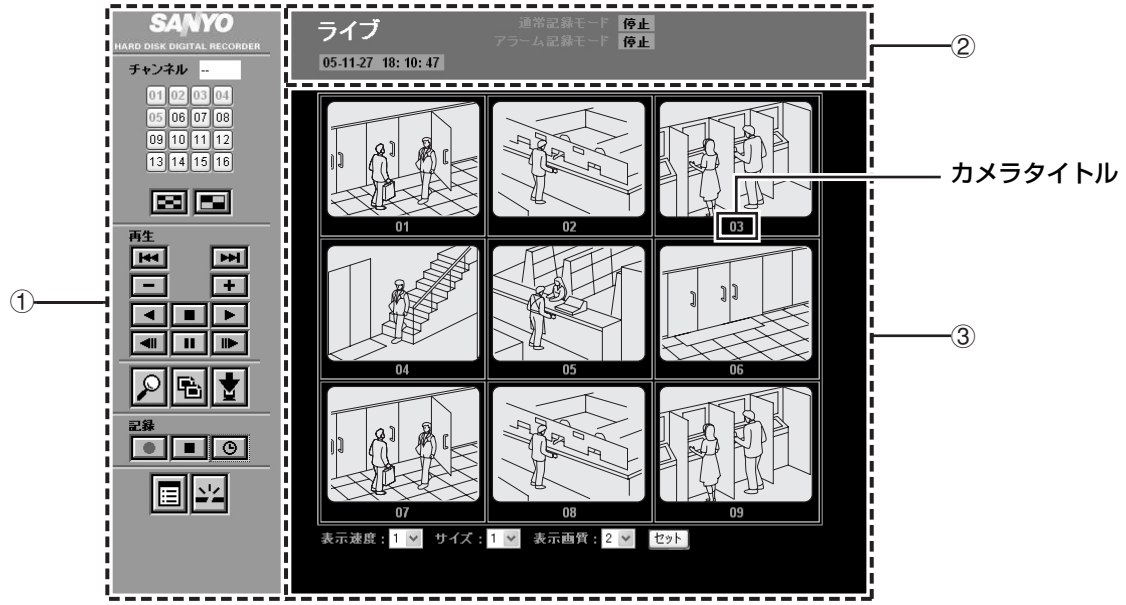


- **コンピュータとの通信が約1分以上途絶えた場合は、自動的に接続を切断しレコーダーの操作に切り換わります。**
- **接続中にレコーダーの「ネットワーク設定」の設定内容を変更した場合は、自動的に切断されます。**

メイン画面の構成と各部のはたらき

ネットワーク接続が完了すると、メイン画面が表示されます。メイン画面は３つのパネルで構成され、操作パネルでライブ映像の閲覧、記録、再生などの基本操作をおこなうことができます。

■メイン画面の構成



（VDH-F920初期画面）

① 操作パネル（P8参照）

表示チャンネルや画面パターンの選択、再生や記録、他の操作画面への切り換えなど、ネットワーク操作の基本的な機能がボタンのワンクリックで実行できます。

操作パネルは、メイン画面から他の操作画面に切り換えても常に表示されます。

② 動作モード表示パネル（P9参照）

表示映像に関する情報やレコーダーの動作状態などを表示します。

③ 画像表示パネル

ライブ映像や再生映像を表示します。画面の表示パターン（１画面／４分割画面／マルチ画面）は操作パネルのボタンで切り換えることができます。

画像表示パネルの最下部には、画面設定用のメニューや保存操作ボタンが表示されます。

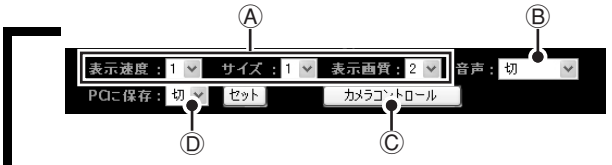
表示されるメニューやボタンは、画面の表示パターンやボタン操作によって切り換わります。右の説明（画像表示パネルのメニュー表示）をご参照ください。

画像表示パネルのメニュー表示

■ ４分割／マルチ画面

Ⓐ 表示速度、サイズ、画質の設定（P11参照）

■ １画面



Ⓐ 表示速度、サイズ、画質の設定（P11参照）
Ⓑ 音声の再生（P11参照）
Ⓒ ドームカメラの操作（P21参照）
Ⓓ ライブ映像のコンピュータへの保存（P17参照）

保存用の設定メニュー

［PCに保存］（Ⓓ）を“入”に設定して［セット］をクリックすると、保存用の設定メニューが表示されます。

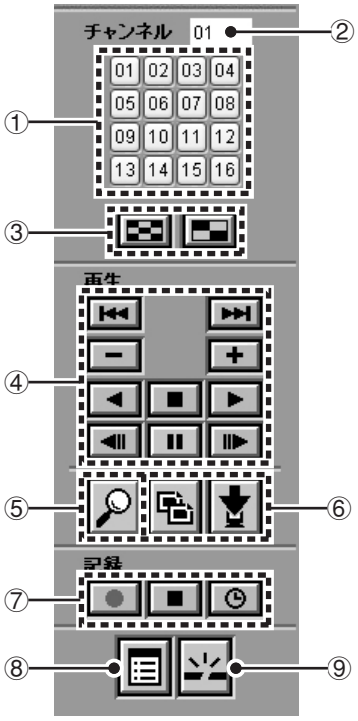
メイン画面の構成と各部のはたらき

1 操作パネルの機能とユーザーレベル

コンピュータからのネットワーク操作する場合は、操作パネルのボタンをクリックしてください。

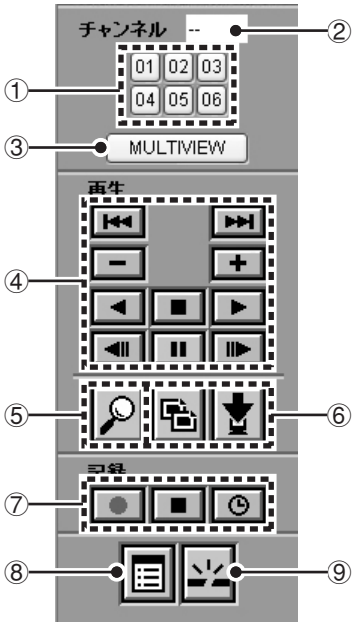
- **操作パネルはレコーダーの機種によってボタンの構成が一部異なります。**
- **接続しているユーザーレベルによってボタンの操作は制限されます。操作可能なユーザーレベルを（　）内に表示しています。(P34参照)**

(9/16チャンネルモデル)



掲載例は16チャンネルモデルです。

(6チャンネルモデル)



① チャンネル選択ボタン（ID1/2/3）

1画面で表示するときにクリックしてください。
ボタンの表示はレコーダーの機種によって変わります。
16チャンネルモデル：01～16
9チャンネルモデル：01～09
6チャンネルモデル：01～06

② チャンネル表示ボックス

選択されたチャンネル番号が表示されます。

③ 画面選択ボタン（ID1/2/3）

9/16チャンネルモデル用の画面を切り換えるときにクリックしてください。
：4分割画面に切り換わる
：マルチ画面（9/16分割画面）に切り換わる
6チャンネルモデル用の画面を切り換えるときにクリックしてください。
MULTIVIEW：マルチ画面（6分割画面）に切り換わる

④ 再生操作ボタン（ID2/3）

：前のアラームへスキップする
：次のアラームへスキップする
：再生速度を上げる
：再生速度を落とす
：逆再生する
：再生する
：再生を停止する
：前の静止画像へコマ送りする
：次の静止画像へコマ送りする
：一時停止する

再生中、あるいは他の操作画面の表示中に■をクリックするとライブ映像を表示します。

⑤ 映像検索ボタン（ID2/3）

：「サーチ」画面に切り換わる

⑥ 保存操作ボタン（ID2/3）

：「コピー」画面に切り換わる
：「ダウンロード」画面に切り換わる

⑦ 記録操作ボタン（ID3）

：通常記録を開始する
：通常記録を停止する
：タイマー記録の開始／停止を切り換える

⑧ メニューボタン（ID3）

：「メインメニュー」画面に切り換わる

⑨ 切断ボタン（ID1/2/3）

：レコーダーとの接続を切断し、ネットワーク操作からレコーダーの操作に切り換わります。

メイン画面の構成と各部のはたらき

2 動作モード表示パネル

表示映像に応じて、ネットワーク操作に必要な情報が表示されます。

A ライブ映像の場合

① 映像区分

“ライブ”と表示されます。

② 日時

“現在日時”が表示されます。

③ 通常記録モード

レコーダーの通常記録の動作モードが表示されます。

- 停止
- 記録中
- タイマー待機
- タイマー記録
- 残量なし
  ［上書き記録］設定が“切”で、通常記録領域に空き容量がない状態

④ アラーム記録モード

レコーダーのアラーム記録の動作モードが表示されます。

- 停止
- プリアラーム記録
- アラーム記録
- 残量なし
  ［上書き記録］設定が“切”で、アラーム記録領域に空き容量がない状態

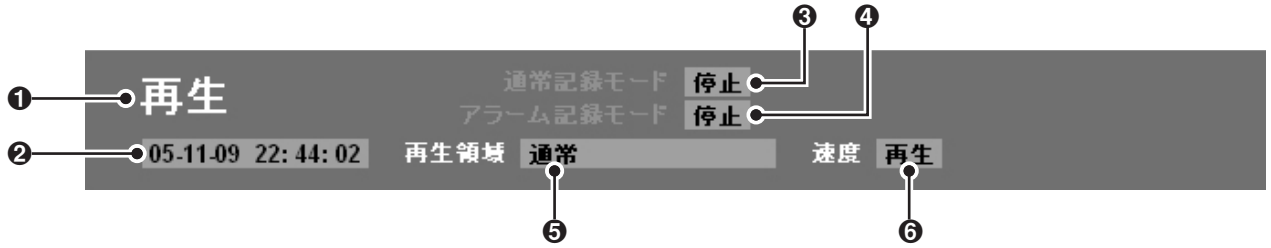
⑤ ユーザーの接続情報

複数のユーザーが同時接続している場合に、接続中のユーザー数がユーザーレベル別に表示されます。

（表示例）ID1:3 ID2:1 ID3:0

現在操作中のご自身のユーザー IDは赤色で表示されます。

B 再生映像の場合



❶ 映像区分

“再生”と表示されます。

❷ 日時

現在再生中の映像の記録日時（タイムスタンプ）が表示されます。

❸ 通常記録モード

レコーダーの通常記録の動作状況が表示されます。
（表示内容はライブ映像の場合と同じです。）

❹ アラーム記録モード

レコーダーのアラーム記録の動作状況が表示されます。
（表示内容はライブ映像の場合と同じです。）

❺ 再生領域

現在再生中の映像の記録領域が表示されます。

- 通常（通常記録領域）
- アラーム（アラーム記録領域）
- プリアラーム（アラーム記録領域のプリアラーム記録）
- バックアップ（バックアップ領域）

❻ 速度

再生中の動作モードが表示されます。

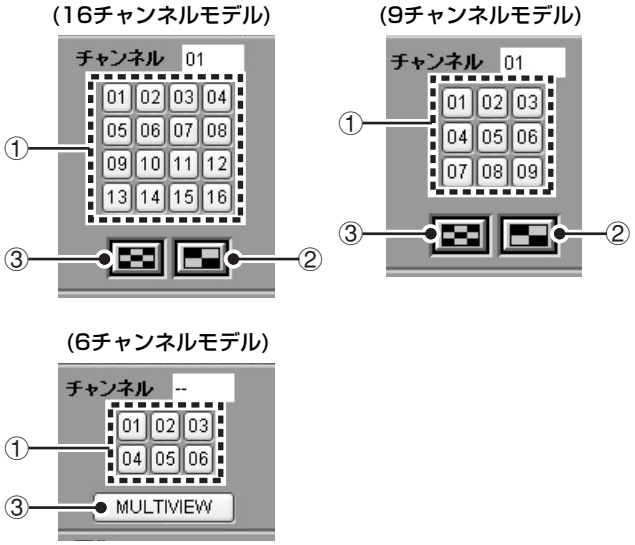
- 再生
- 一時停止
- 逆再生
- キュー（早送り）
- レビュー（早戻し）
- スロー（スロー再生）
- 逆スロー（逆スロー再生）

ライブ映像を見る

ネットワーク操作に切り換わると、メイン画面の画像表示パネルにライブ映像が自動的に表示されます。
再生中や他の操作画面を表示中のときは、操作パネルの■（再生停止ボタン）をクリックするとライブ映像に切り換わります。

1 ライブ映像の表示パターンを切り換える（ID1/2/3）

映像の表示パターンは、１画面（チャンネル指定）、４分割画面、マルチ画面の３パターンから選択することができます。



① 1画面で見る

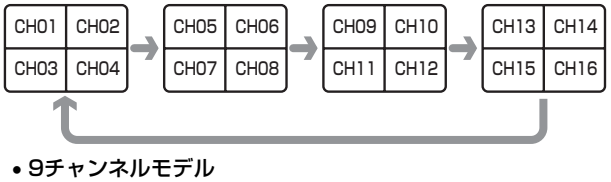
チャンネル選択ボタンをクリックするか、あるいは４分割画面／マルチ画面のチャンネル映像上でクリックしてください。指定されたチャンネル映像が１画面で表示されます。

② 4分割画面で見る（9/16チャンネルモデルにのみ対応）

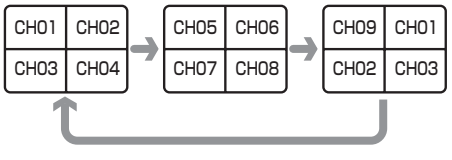
■をクリックしてください。レコーダーに接続するカメラ映像をチャンネル番号順に４チャンネルずつ表示します。

画面パターンは、■をクリックするたびに切り換わります。

• 16チャンネルモデル



• 9チャンネルモデル

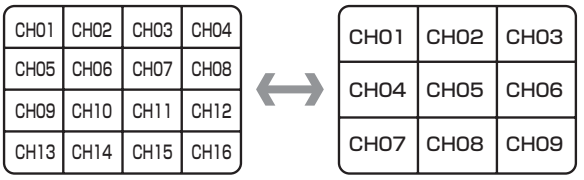


③ マルチ画面（6/9/16分割）で見る

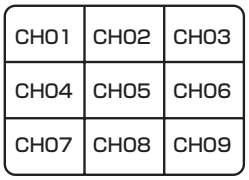
■または MULTIVIEW をクリックしてください。レコーダーの機種に応じて6/9/16分割のマルチ画面で表示します。

16チャンネルモデルでは、■をクリックするたびに、16分割画面と9分割画面が交互に切り換わります。

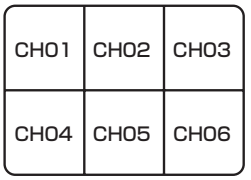
• 16チャンネルモデル



• 9チャンネルモデル



• 6チャンネルモデル

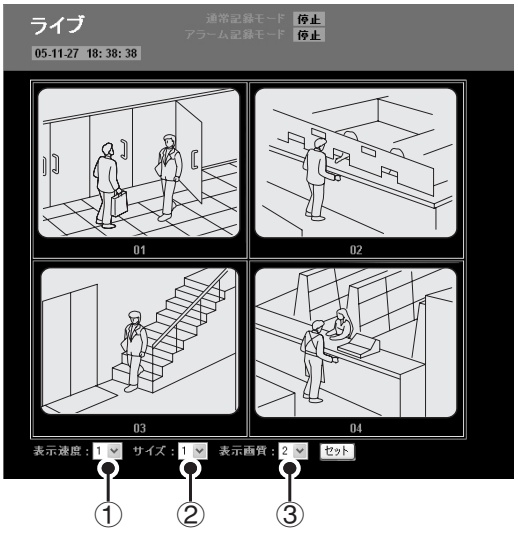


- **マルチ画面では、カメラ映像がチャンネル番号順に割り当てられます。（レコーダーの「画面設定」には影響されません。）**
- **音声を再生できるのは１画面表示の場合だけです。**
- **４分割画面とマルチ画面での画像表示速度は、ネットワーク環境によって異なります。**

ライブ映像を見る

2 映像の表示モードを設定する（ID1/2/3）

ライブや再生映像の表示モードを設定することができます。各項目のプルダウンメニューから設定値を選択して［セット］をクリックしてください。



① 表示速度（初期設定：1）

画像の表示速度を5段階で選択できます。数値が大きくなるほど速度が速くなります。

実際の表示速度は、ネットワーク環境などによって影響を受けます。

［音声］を“入”に設定している場合は表示速度を設定できません。

② サイズ（初期設定：1）

画像の表示サイズを6段階で選択できます。数値が大きくなるほど画像が大きくなります。

③ 表示画質（初期設定：2）

ライブ映像の画質を3段階で選択できます。

選択された画質は、レコーダーに接続するすべてのチャンネル映像に適用されます。

選択項目：

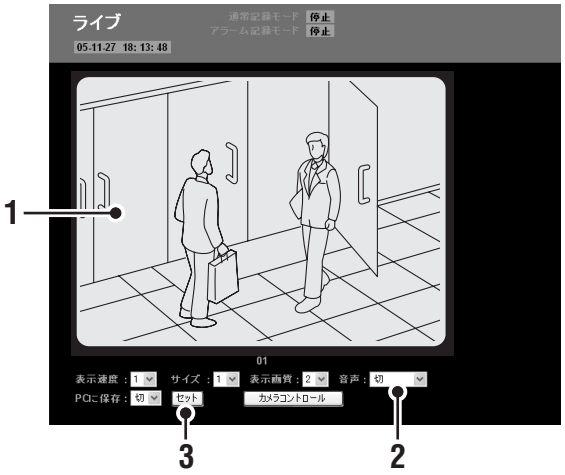
1：低画質、2：標準画質、3：高画質

再生映像の場合は画質を選択できませんので、［表示画質］の設定メニューは表示されません。

3 音声を再生する（ID2/3）

ライブや再生映像の音声を同時に再生（出力）することができます。

音声を再生する場合は、付属のアプリケーションソフト“DVR Viewer2”をあらかじめコンピュータにインストールしておいてください。（P36参照）



1 チャンネル選択ボタンをクリックする

1画面表示になり、［音声］の設定メニューが表示されます。

2 ［音声］を“入”に設定する

音声データは一定時間バッファリングされてから再生されます。［音声］を“入”に設定する場合は、同時にバッファリング時間も選択してください。

選択項目：

- **切（初期設定）**
- **入-5/10/15/20/30秒**

3 ［セット］をクリックする

映像の音声が再生されます。

- **4分割画面とマルチ画面では、音声の再生はできません。**
- **音声付きの画像を再生する場合は音声を優先して再生しますので、環境によっては画像が表示されない場合もあります。**

バッファリングとは

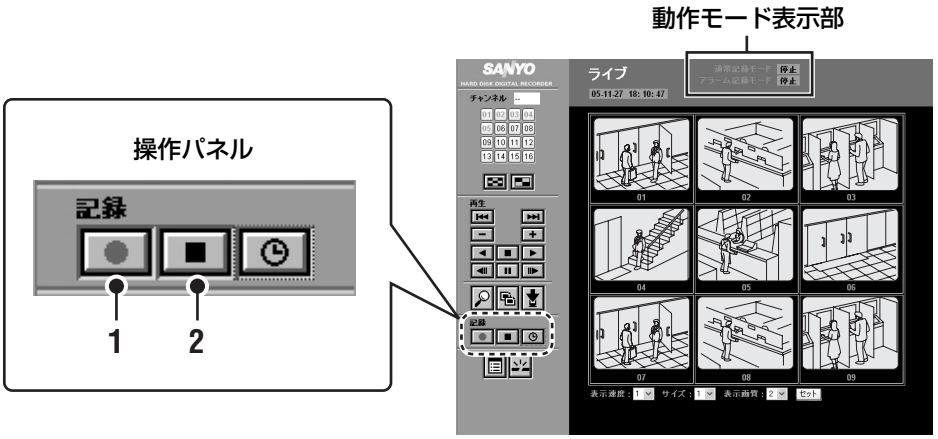
データを先読みして一定量保存することです。
バッファリング時間を長く設定すると再生クオリティがアップしますが、音声のタイムラグ（遅延）が発生します。

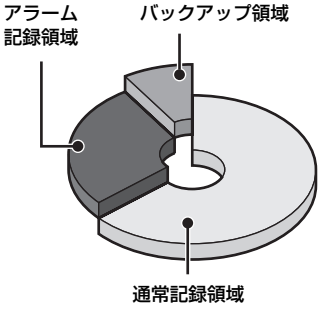
ライブ映像を記録する

（ユーザーレベル：ID3）

ライブ映像をレコーダーのハードディスクに記録することができます。
記録のしかたには、通常記録、タイマー記録、アラーム記録、プリアラーム記録の４つの方法があり、操作に応じてライブ映像が自動的に各記録領域に記録されます。

- **レコーダーに接続しているカメラ映像がすべて記録されます。チャンネルの指定はできません。**
- **レコーダー側の時刻が未設定の場合は、記録はできません。記録をおこなう前に時刻を設定してください。（P24参照）**





■通常記録（通常記録領域）

ライブ映像を、操作パネルの手動操作で記録します。

1 ●をクリックする

動作モード表示部の［通常記録モード］の表示が“**記録中**”に変わり、記録を開始します。

2 記録を停止するときは■をクリックする

［通常記録モード］の表示が“**停止**”に変わり、記録を停止します。

■その他の記録方法について

記録条件を記録設定メニューで設定します。詳しくは該当ページをご参照ください。

☞ **タイマー記録（通常記録領域）**
タイマー予約によって、ライブ映像が自動的に記録されます。（P28参照）

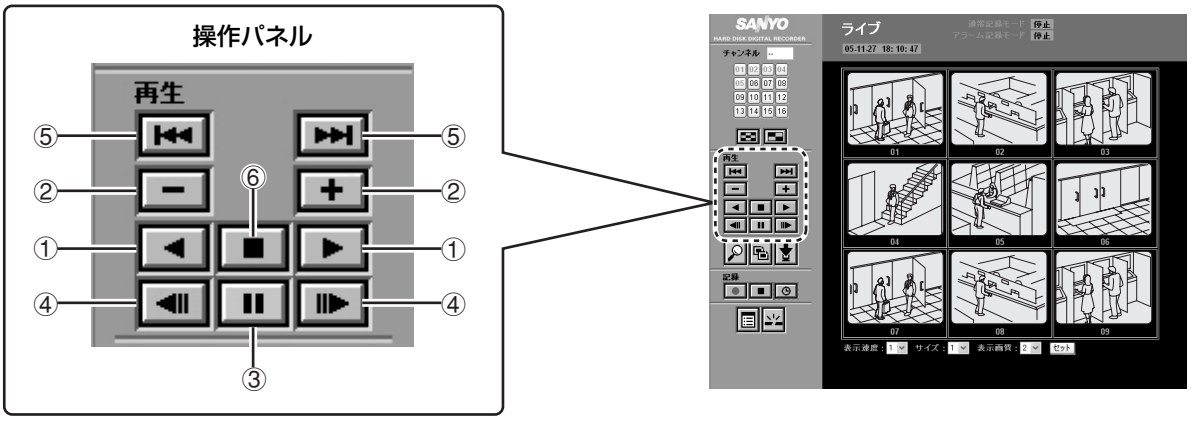
☞ **アラーム記録（アラーム記録領域）**
モーションセンサーや外部装置（ドアスイッチや赤外線センサーなど）からの信号によって、外部侵入者などのアラーム映像が自動的に記録されます。（P30参照）

☞ **プリアラーム記録（アラーム記録領域）**
プリアラーム記録を設定しておくと、上書きを繰り返しながら常に一定時間分の最新映像がアラーム記録領域に記録されます。アラーム記録を再生するときに、アラームの発生直前の映像も併せて見ることができます。（P31参照）

記録映像を見る

（ユーザーレベル：ID2/3）

レコーダーに記録された映像を自由に再生することができます。
再生操作をおこなっても、レコーダーの記録動作には一切影響は与えません。



■記録映像を再生する

1 操作パネルの▶または◀（①）をクリックする

動作モード表示パネルの映像区分が“再生”に変わり、画像表示パネルに記録映像が再生されます。

2 再生の方向や速度などを調整するときは、操作パネルで操作する

① **再生／逆再生するには**
▶または◀をクリックする

② **再生速度を調整する**
再生中に＋または－をクリックする
再生速度を調整することにより、早送り、早戻し、スロー再生などが可能です。

③ **静止画像にするには**
再生中に⏸をクリックする
静止画像の状態で再度クリックすると通常再生に戻ります。

④ **コマ送り／コマ戻しするには**
静止画像の状態で⏭または⏮をクリックする

⑤ **アラームスキップさせるには**
再生中に⏭または⏮をクリックする
直後または直前のアラーム映像までスキップします。

3 再生を停止するときは、■（⑥）をクリックする

映像区分が“ライブ”に変わり、ライブ映像に戻ります。

■再生の基本動作について

- 通常の再生操作では、通常記録領域とアラーム記録領域に記録されているすべての映像（通常、タイマー、アラーム、プリアラーム）が再生の対象となります。
- 映像を検索して再生する場合はサーチ機能をご利用ください。（P14参照）
- 再生の順番は、記録日時の古い映像から順に再生されます。
- 一度再生をおこなった場合は、前回の再生終了ポイントから続けて再生されます。
- 再生画面の表示パターン（１画面／４分割画面／マルチ画面）は自由に切り換えることができます。４分割画面やマルチ画面では、レコーダーに接続する複数のカメラの再生映像を同時に見ることができます。

- **通常記録とアラーム記録を連続再生すると映像が乱れる場合があります。**
- **再生中にアラーム記録が動作した場合や、通常記録とアラーム記録の連続再生中に早送り・早戻しの操作をおこなうと一時的に映像の動きが停止することがあります。**

記録映像を検索する

（ユーザレベル：ID2/3）

レコーダーの各記録領域に記録された映像データの中から、特定の映像を検索し再生することができます。

（サーチメニュー）

検索目的に応じて、次の5つのサーチメニューがあります。

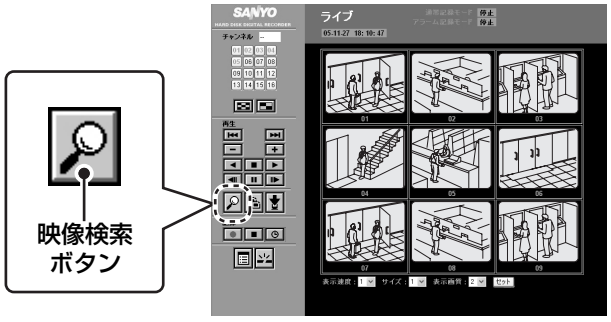
- **アラームサーチ**
  アラーム記録領域に記録されている映像を、リスト（アラーム番号、記録日時、チャンネル番号）で検索して再生します。
- **アラームサムネイルサーチ**
  アラーム記録領域に記録されている映像を、サムネイルで検索して再生します。
- **日時サーチ**
  通常記録領域とアラーム記録領域に記録されている映像の中から、記録日時とチャンネルを指定して検索し再生します。
- **バックアップ領域サーチ**
  バックアップ領域に保存されている映像を、リスト（映像番号、記録日時、チャンネル番号）で検索して再生します。
- **モーション検出サーチ**
  通常記録領域とアラーム記録領域に記録されている映像の中から、動きのある映像をモーションセンサーで検索し再生します。

■サーチ画面の選択

1 操作パネルの[🔍]をクリックする

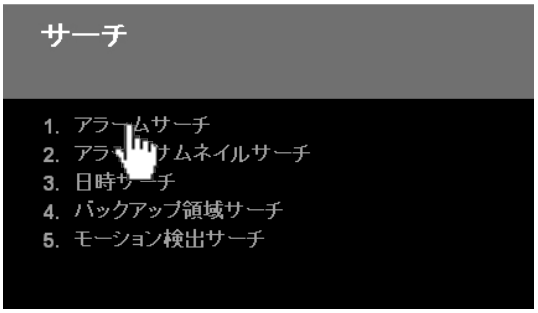
「サーチ」画面が表示されます。

再生映像からは、「サーチ」画面に切り換えることはできません。

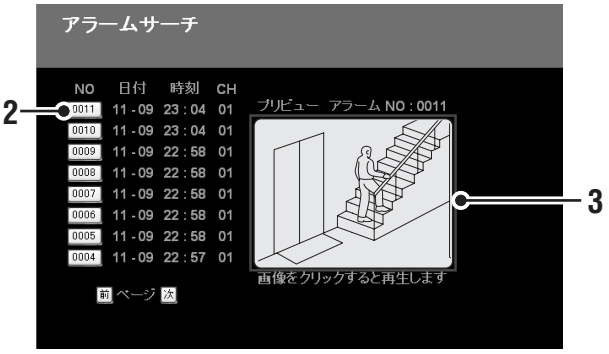


2 サーチメニューを選択してクリックする

選択したサーチメニューの画面に切り換わります。



1 アラームサーチ



1 サーチメニューの“1. アラームサーチ”をクリックする

「アラームサーチ」画面が表示されます。

2 リストのアラーム番号をクリックする

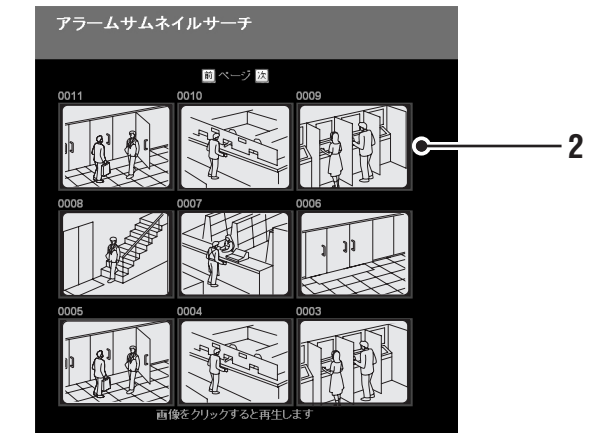
該当するアラームイベントの先頭画像がPREVIEW画面に静止画像で表示されます。

3 プリビュー画面をクリックする

メイン画面に切り換わってアラーム映像が再生されます。再生開始後は、通常の再生操作ができます。

リストにはアラームイベントが新しいものから順に8件まで表示されます。［前］／［次］ボタンで前後のページに切り換わります。

2 アラームサムネイルサーチ



1 サーチメニューの“2. アラームサムネイルサーチ”をクリックする

「アラームサムネイルサーチ」画面が表示されます。

2 サムネイルを選択してクリックする

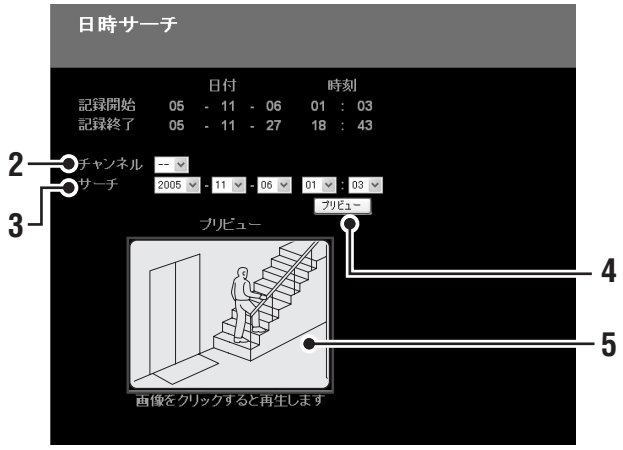
メイン画面に切り換わってアラーム映像が再生されます。再生開始後は、通常の再生操作ができます。

各アラームイベントの先頭の静止画像が、新しいものから順に9件までサムネイルで表示されます。［前］／［次］ボタンで前後のページに切り換わります。

記録映像を検索する

（ユーザレベル：ID2/3）

3 日時サーチ



1 サーチメニューの“3. 日時サーチ”をクリックする

「日時サーチ」画面が表示されます。

2 チャンネルを指定する

チャンネルを指定して、検索範囲を絞り込むことができます。

チャンネル（カメラ番号）を指定しない場合は“--”を選択してください。

3 再生したい映像の記録日時を指定する

レコーダーに記録されている映像の開始日時と終了日時が［記録開始］と［記録終了］に表示されています。この範囲内で“年／月／日／時／分”を指定してください。

4 プリビューをクリックする

指定した日時の画像が、プリビュー画面に静止画像で表示されます。

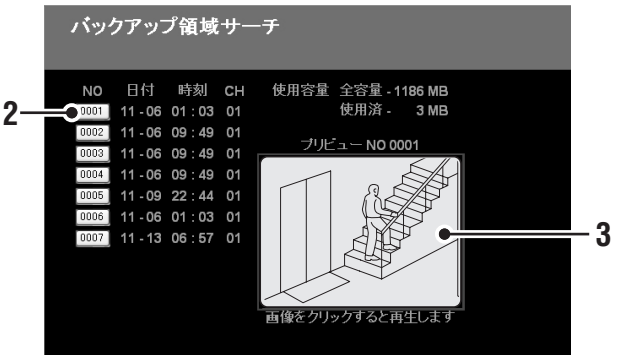
プリビュー画像を変更したいときは、同様の操作（手順2～3）を繰り返してください。

指定した日時に記録映像がない場合は、指定日時にもっとも近い記録映像が表示されます。

5 プリビュー画面をクリックする

メイン画面に切り換わって映像が再生されます。再生開始後は、通常の再生操作ができます。

4 バックアップ領域サーチ



1 サーチメニューの“4. バックアップ領域サーチ”をクリックする

「バックアップ領域サーチ」画面が表示されます。

2 リストの映像番号をクリックする

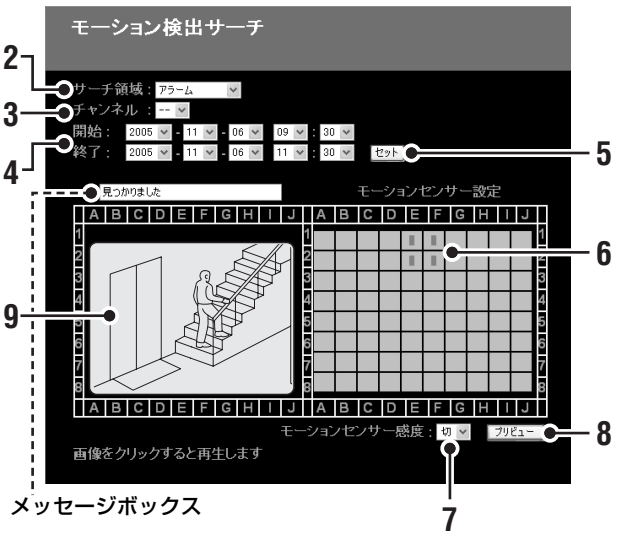
該当する保存映像の先頭画像がプリビュー画面に静止画像で表示されます。

3 プリビュー画面をクリックする

メイン画面に切り換わって保存映像が再生されます。再生開始後は、通常の再生操作ができます。

- リストには保存映像が履歴の古いものから順に8件まで表示されます。［前］／［次］ボタンで前後のページに切り換わります。
- 画面右上には、バックアップ領域の全容量と使用済みの容量が参考表示されています。

5 モーション検出サーチ



1 サーチメニューの“5. モーション検出サーチ”をクリックする

「モーション検出サーチ」画面が表示されます。

2 ［サーチ領域］を指定する

検索対象となる記録領域を選択してください。

選択項目：

- **アラーム（アラーム記録領域）**
- **通常（通常記録領域）**
- **アラームと通常（アラーム／通常記録領域）**

3 ［チャンネル］を指定する

チャンネルを指定して、検索範囲を絞り込むことができます。チャンネルを指定しない場合は“--”を選択してください。

4 検索する映像の範囲を指定する

レコーダーに記録されている映像の開始日時と終了日時が［開始］と［終了］に表示されています。

検索範囲を絞り込む場合は、［開始］／［終了］の日時を変更してください。

5 セットをクリックする

プリビュー画面に検索範囲の先頭画像が静止画で表示されます。

モーション検出サーチをおこなわない場合は、そのままプリビュー画面をクリックしてください。メイン画面に切り換わって映像が再生されます。

6 モーションの検出ポイントを設定する（モーションセンサー設定）

プリビュー画面にモーション検出ポイントの設定枠が「縦８×横10」のマス目で表示されます。

マス目の上をクリックすると赤いマークが表示され、モーション検出ポイントに設定されます。再度クリックすると設定が解除されます。プリビュー画面を見ながら、必要な部分にモーション検出ポイントを設定してください。

7 ［モーションセンサー感度］を設定する

モーションセンサーの検出感度を設定します。

選択値：切／１（高い）～10（低い）

風などによる被写体の揺れや小さな動きの検出を避けたい場合は、設定値を上げてください。

8 プリビューをクリックする

指定した検索範囲の映像に対しモーション検出サーチを実行されます。

動きのある映像が検出された場合はプリビュー画面に静止画で表示されます。

動きのある映像が複数検出された場合は、［プリビュー］をクリックするごとに、古いものから順に検出された映像が表示されます。

9 プリビュー画面をクリックする

メイン画面に切り換わって映像が再生されます。再生開始後は通常の再生操作ができます。

メッセージボックスの表示について

検索条件を設定したり、［セット］や［プリビュー］のボタンをクリックすると、プリビュー画面の上のメッセージボックスに検索の状況や結果がその都度表示されます。

表示メッセージ：

- **検索中**
- **見つかりました**
- **画像が見つかりませんでした！**

映像を保存する

（ユーザレベル：ID2/3）

映像を保存するには次の３つの方法があります。目的に応じて、保存方法を選択してください。

- ライブ映像をコンピュータに保存する（P17参照）
- 記録された映像をレコーダーのバックアップ領域にコピーする（P18参照）
- 記録された映像をコンピュータにダウンロードする（P19参照）

- **保存をおこなう場合は１画面表示にしてください。４分割画面やマルチ画面では保存操作はできません。**
- **保存をおこなう場合は、付属のアプリケーションソフト“DVR Viewer２”をあらかじめコンピュータにインストールしておいてください。保存した画像ファイルもこのソフトで再生できます。(P36参照)**
- **使用環境によりネットワークビジーを検出した場合は、レコーダーの記録動作を保護するために、ネットワークが強制切断されることがあります。この場合は保存する画像枚数を減らして調整してください。**

A ライブ映像をコンピュータに保存する

この操作では、レコーダーに映像は記録されません。また、レコーダーが記録中の場合でも、この操作による影響はありません。

1 ライブ映像を表示し、チャンネル選択ボタンをクリックする

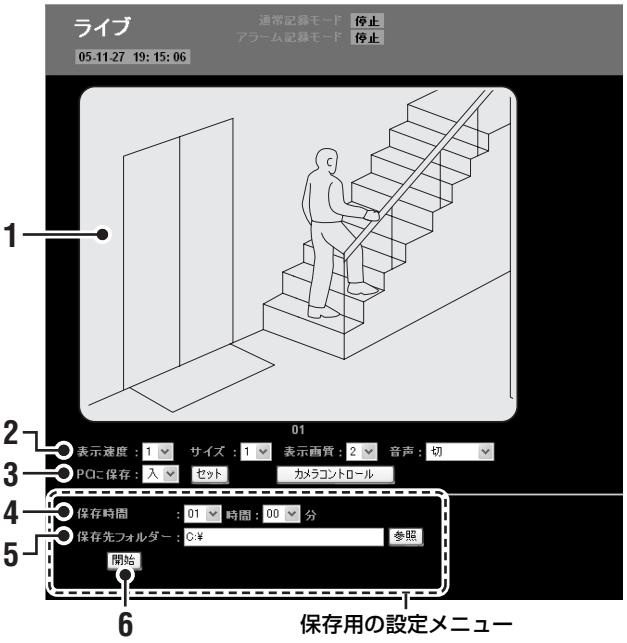
1画面表示になり、保存用の設定メニューが表示されます。

2 画像の表示モードを設定する

- **表示速度：**
  設定値を大きくすると、一定時間内に保存される画像枚数が増えます。
- **サイズ／表示画質：**
  保存される画像に影響はありません。
- **音声：**
  音声も保存する場合は“入”に設定してください。

3 [PCに保存]を“入”に設定して[セット]をクリックする

保存用の設定メニューが下に表示されます。



保存用の設定メニュー

4 [保存時間]を設定する

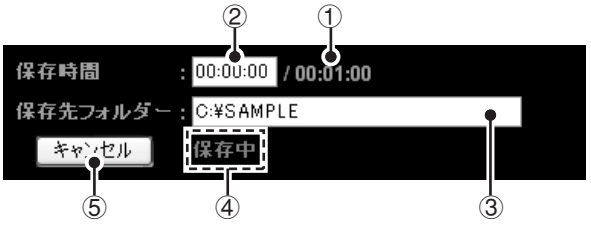
保存する映像時間を設定してください。
（設定単位：時間／分）

5 [参照]をクリックし、フォルダーの一覧から保存先を選択して［OK］をクリックする

［保存先フォルダー］に選択したフォルダーが表示されます。
ボックスに、直接パスを入力することもできます。

6 [開始]をクリックする

保存を開始し、動作状況が表示されます。



① **保存する映像時間**
② **経過時間**
③ **保存先フォルダー**
④ **保存動作中のメッセージ**
⑤ **［キャンセル］ボタン：**
クリックすると保存を中断します。

7 保存が終了すると終了点で画像が静止し、“保存完了”のダイアログが表示される

[OK]をクリックするとライブ映像に戻ります。

B 記録映像をレコーダーのバックアップ領域にコピーする

レコーダーの通常記録領域とアラーム記録領域に記録されている映像をバックアップ領域にコピーします。

レコーダーの［上書き記録］設定が“入”の場合は、記録領域が満杯になると記録映像が古いものから順に上書きされていきますので、大切な映像はバックアップ領域にコピーして保存してください。

1 コピーする映像を再生し、チャンネル選択ボタンをクリックする

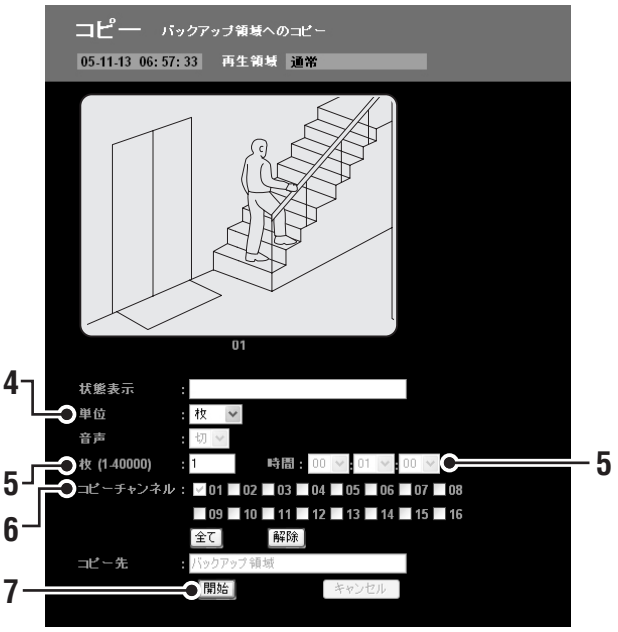
1画面表示になり、コピー操作ができるようになります。

記録映像を検索して再生する場合は、サーチ機能を使うと便利です。（P14参照）

2 コピー開始点で ⏸ をクリックして静止画像にする

3 操作パネルの 📋 をクリックする

「コピー」画面に切り換わります。



4 コピーする映像の［単位］を選択する

コピーする映像は、画像枚数または時間で指定できます。

- **枚：**
  開始点からの画像枚数（コピーするチャンネルの合計枚数）
- **時間：**
  開始点からの時間（記録時間）

5 コピーする映像の範囲を指定する

手順4で選択した［単位］に対する数値を設定してください。

- **枚：** 1～40000（枚）
- **時間：** 時間：分：秒（00:00:01～99:59:59）

6 コピーするチャンネルのチェックボックスにチェックを入れる

現在表示中の画像のチャンネルには自動的にチェックが入っています。チェックを外すことはできません。

- 全て：すべてのチャンネルにチェックが入ります。
- 解除：表示中のチャンネル以外のチェックをすべて解除します。

7 開始 をクリックする

コピーを開始します。

コピーが終了すると、コピー結果が表示されます。

コピーを中断する場合は［キャンセル］をクリックしてください。それまでに実行されたコピーは有効ですので、中断時点までの映像範囲はレコーダーのバックアップ領域に保存されます。

8 ライブ をクリックする

ライブ映像に戻ります。

- **バックアップ領域の記録映像を再生中はコピー操作はできません。**
- **バックアップ領域にコピーできるのは映像データだけです。音声付きの映像の場合は、映像だけがコピーされ音声はコピーされません。**
- **コピー中にバックアップ領域が満杯になった場合は、自動的にコピーを中断します。**
  レコーダー側の操作で、バックアップ領域の保存映像をコンパクトフラッシュなどに一旦ダウンロードしてから、「記録領域設定」の［記録再開許可］ボタンをクリックしてください。コピーを再開します。（P25参照）

C 記録映像をコンピュータにダウンロードする

レコーダーに記録されている映像を、ネットワーク操作中のコンピュータのドライブにダウンロードします。

1 ダウンロードする映像を再生し、チャンネル選択ボタンをクリックする

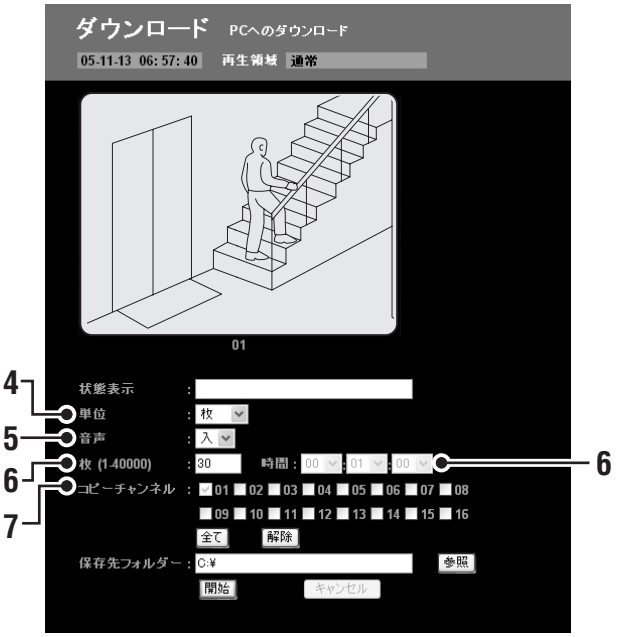
1画面表示になり、ダウンロード操作ができるようになります。

記録映像を検索して再生する場合は、サーチ機能を使うと便利です。（P14参照）

2 ダウンロード開始点で ⏸ をクリックして静止画像にする

3 操作パネルの ⬇ をクリックする

「ダウンロード」画面に切り換わります。



4 ダウンロードする映像の［単位］を選択する

ダウンロードする映像は、画像枚数または時間で指定できます。

- **枚：**
  開始点からの画像枚数（ダウンロードするチャンネルの合計枚数）
- **時間：**
  開始点からの時間（記録時間）

5 ［音声］を設定する

映像と一緒に音声もダウンロードする場合は“入”に設定します。

6 ダウンロードする映像の範囲を指定する

手順4で選択した［単位］に対する数値を設定してください。

- **枚：** 1～40000（枚）
- **時間：** 時間：分：秒（00:00:01～99:59:59）

7 ダウンロードするチャンネルのチェックボックスにチェックを入れる。

現在表示中の画像のチャンネルには自動的にチェックが入っています。チェックを外すことはできません。

- 全て：すべてのチャンネルにチェックが入ります。
- 解除：表示中のチャンネル以外のチェックをすべて解除します。

8 参照 をクリックし、フォルダーの一覧から保存先を選択して［OK］をクリックする

［保存先フォルダー］に選択したフォルダーが表示されます。

ボックスに、直接パスを入力することもできます。

9 開始 をクリックする

ダウンロードを開始し、動作状況が表示されます。

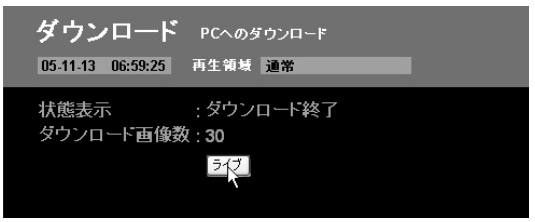
① **進行状況（0～100%）**
② **経過時間**
③ **保存先フォルダー**
④ **［キャンセル］ボタン：**
クリックするとダウンロードを中断します。それまでに実行されたダウンロードは有効ですので、中断時点までの映像範囲はコンピュータに保存されます。

10 “ダウンロード終了！”のダイアログが表示されたら OK をクリックする

ダウンロード結果が表示されます。

11 ライブ をクリックする

ライブ映像に戻ります。



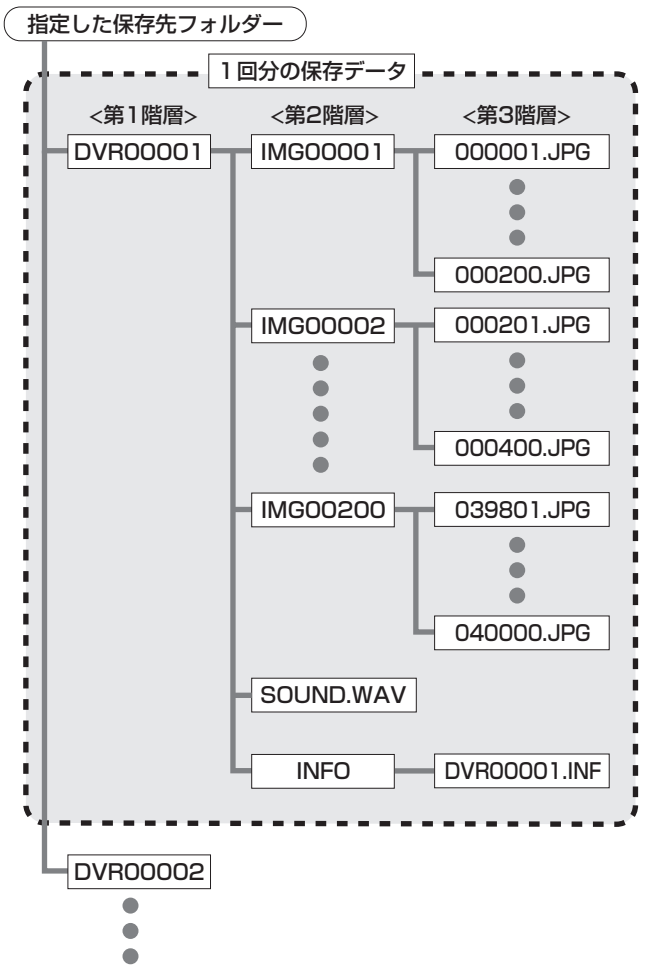
D 画像ファイルの保存形式

“PCに保存”あるいは“ダウンロード”の操作で画像データをコンピュータにダウンロードした場合の保存形式（ファイル構造）は次のとおりです。

指定した保存先フォルダーの下に3階層の構造で保存されます。

- 第１階層には“DVR+5桁連番”のサブフォルダーが作成され、１回分のダウンロードデータが収められます。
- 画像は200枚ごとに第２階層のIMGフォルダーに収められます。IMGフォルダーは最大200個作成され、１回のダウンロードで40000枚の画像保存が可能です。
- 音声付き画像の場合は、“SOUND.WAV”フォルダーにWAVファイルが保存されます。
- “INFO”フォルダーはダウンロード単位で作成され、設定情報ファイルが保存されます。

“INFO”フォルダーが作成されるのは、“ダウンロード”操作による保存の場合だけです。



ドームカメラを操作する

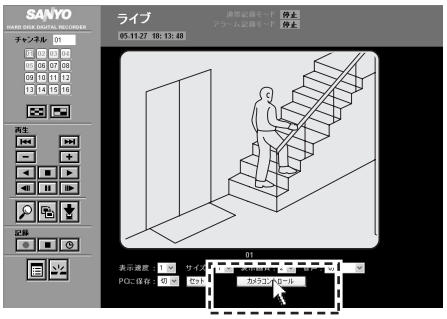
（ユーザレベル：ID2/3）

レコーダーに同軸重畳タイプのドームカメラが接続している場合は、操作パネルをカメラコントロール用に切り換えて、コンピュータからカメラを遠隔操作できます。

- **操作パネルをカメラコントロール用に切り換える場合は、ライブ映像を１画面で表示してください。４分割画面やマルチ画面、あるいは再生映像の表示中は切り換えができません。**
- **［音声］や［PCに保存］が“入”に設定されている場合、あるいはレコーダー側の時刻が未設定の場合は、カメラコントロールはできません。**

1 ライブ映像を表示し、チャンネル選択ボタンをクリックする

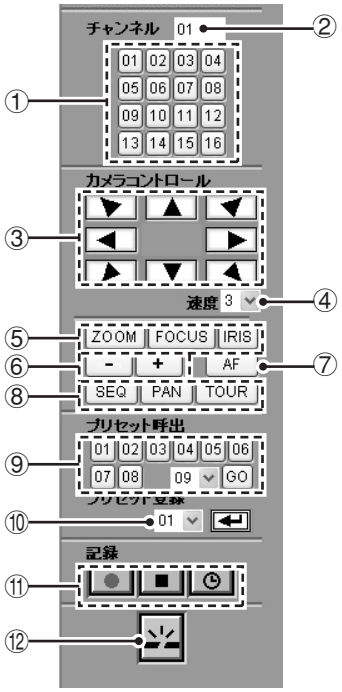
１画面表示になり、カメラコントロール ボタンが表示されます。



2 カメラコントロール をクリックする

操作パネルがカメラコントロール用に切り換わり、カメラコントロールができるようになります。

<カメラコントロール用操作パネル>



掲載例は16チャンネルモデルです。

3 カメラコントロール を再度クリックする

カメラコントロールを終了し、操作パネルが通常の表示に戻ります。

カメラコントロール用操作パネルの機能

① チャンネル選択ボタン

カメラコントロールをするチャンネルを選択します。

ボタンの表示はレコーダーの機種によって変わります。

16チャンネルモデル：01〜16

9チャンネルモデル：01〜09

6チャンネルモデル：01〜06

② チャンネル表示ボックス

選択されたチャンネル番号が表示されます。

③ パンチルトボタン

上下左右と斜めの８方向にカメラレンズの向きを変えます。

④ 速度

カメラの動作速度を７段階で調整します。

⑤ ZOOM/FOCUS/IRISの切換ボタン

ズーム、フォーカス、アイリスの調整をおこないます。（選択中のボタンは緑色で表示されます。）

⑥ ZOOM/FOCUS/IRISの調整ボタン（−/+）

- ZOOM：＋（ズームイン）、−（ズームアウト）
- FOCUS：＋（遠）、−（近）
- IRIS：＋（開く）、−（閉じる）

⑦ オートフォーカスボタン（AF）

フォーカスを自動で合わせます。

⑧ SEQ/PAN/TOUR切換ボタン

シーケンス、オートパン、ツアーの各動作を開始／終了します。

⑨ プリセット呼出ボタン

プリセット番号に登録されている角度にカメラレンズの向きを移動します。

“09”以降のプリセット番号（09〜64）は、プルダウンメニューで選択して GO をクリックしてください。

⑩ プリセット登録

プルダウンメニューでプリセット番号を選択して ↵ をクリックすると、その時点のレンズの角度が登録されます。

⑪ 記録操作ボタン

●：手動記録を開始します。

■：手動記録を停止します。

🕒：タイマー記録の開始／停止を切り換えます。

⑫ 切断ボタン

レコーダーとの接続を切断し、ネットワーク操作からレコーダーの操作に切り換わります。

基本メニューをネットワーク操作で設定する

（ユーザレベル：ID3）

通常、レコーダーの動作条件はレコーダーで設定しますが、次の基本メニューは、レコーダーと同様の設定をコンピュータからおこなうことができます。

基本設定メニューのあらまし

■ 初期設定

A 時刻設定 (P24参照)
レコーダーの時刻設定

B 外部時刻設定 (P24参照)
接続レコーダーの自動時刻調整機能の設定

C 休日設定 (P24参照)
休日扱いにする日付の設定

■ 記録設定

A 記録領域設定 (P25参照)
各記録領域の容量割合の表示と、容量オーバーで記録が停止したときの記録再開操作

B 記録条件設定 (P26参照)
上書き記録など、ハードディスクに関する条件設定

C 通常記録設定 (P27参照)
通常記録とタイマー記録の条件設定

D プログラム記録設定 (P28参照)
記録するカメラの組み合わせや個々の記録レートのプログラム設定

E タイマー設定 (P28参照)
タイマー記録の条件設定

F アラーム記録設定 (P30参照)
アラーム記録とプリアラーム記録の条件設定

■ 一般設定

A データ表示設定 (P32参照)
接続モニターの表示情報の設定

B ブザー設定 (P32参照)
警告ブザーの設定

C ハードディスク設定 (P33参照)
ハードディスク情報の表示と、ハードディスクを2台搭載の場合の再生用ディスクの指定

D ネットワーク設定 (P34参照)
ネットワーク接続のための条件や接続用のパスワードの設定

E RS-485設定 (P34参照)
システムコントローラーで操作する場合の、レコーダーのインターフェイス情報の表示
（レコーダーが6チャンネルモデルの場合は表示されません。）

■ 画面設定とレコーダー情報

A マスク設定 (P35参照)
特定チャンネルに対するマスク設定

B 停電情報／使用時間 (P35参照)
停電履歴、使用時間、ファームウェアのバージョンなどの表示

C 初期化履歴 (P35参照)
ハードディスクの初期化と記録再開の履歴表示

上記以外の設定メニューはネットワーク操作の対象外ですので、レコーダーで設定してください。

基本メニューをネットワーク操作で設定する

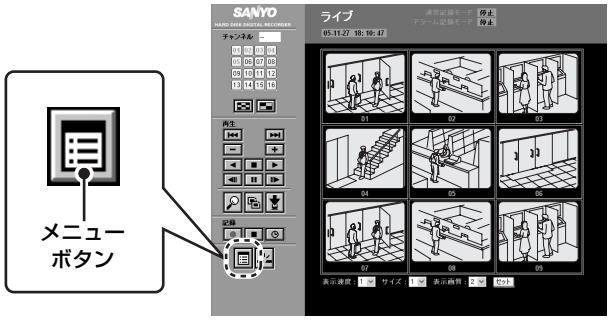
（ユーザレベル：ID3）

基本メニューの設定手順

1 操作パネルの[メニュー]をクリックする

「メインメニュー」画面が表示されます。

再生映像からは、「メインメニュー」画面に切り換えることはできません。



2 メニューを選択してクリックする

指定したメニュー画面に切り換わります。

レコーダーに初めて接続したときは、レコーダーに現在の日時が正しく設定されているかどうかを「時刻設定」画面で確認してください。(P24参照)

3 各メニューの項目を設定する

画面には、レコーダーの現在の設定情報が読み込まれ表示されます。設定内容を確認し、必要な項目を新しい設定に変更してください。

（「時刻設定」画面例）

（「通常記録設定」画面例）

4 設定が終わったら、[セット]または[保存]をクリックする

設定内容が確定し、レコーダーに保存されます。

- **レコーダーが記録中の場合は、設定情報は読み込まれますが、設定内容は変更できません。**
- **情報表示機能に限定されたメニュー画面では［セット］や［保存］のボタンは表示されません。**

5 操作パネルの[■]（再生停止ボタン）をクリックする

メイン画面のライブ映像に戻ります。

複数のメニュー画面で設定する場合は

別のメニュー画面に切り換える場合は[メニュー]をクリックし、「メインメニュー」画面に戻ってから同様の操作を繰り返してください。

初期設定

（ユーザレベル：ID3）

A 時刻設定

レコーダーの内蔵時計を設定します。

プルダウンメニューで、年／月／日／時／分を設定してください。曜日は日付を基に自動的に設定されます。

レコーダーに時刻が設定されていないと、記録やカメラコントロールの操作はできません。

B 外部時刻設定

接続レコーダーの時刻調整機能を設定します。

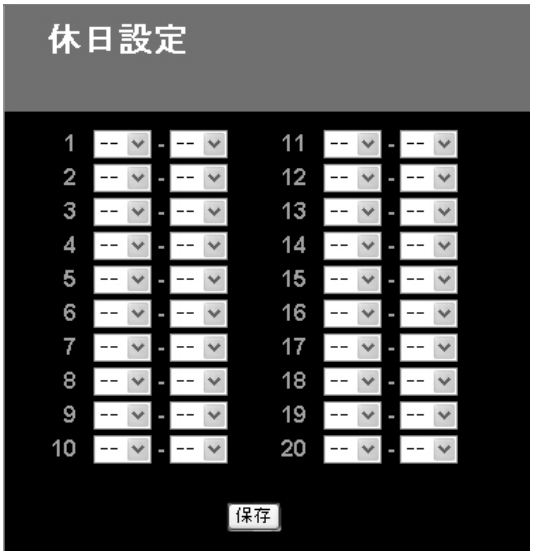
レコーダーを2台以上接続している場合に、各レコーダーの時刻を同じ時刻に自動調整する機能です。プルダウンメニューで調整時刻を設定してください。

毎日、設定された時刻になると信号が出力され、レコーダー後面の「時刻合わせ出力」端子と接続しているすべてのレコーダーが秒単位で同じ時刻に調整されます。

C 休日設定

祝日や記念日など、休日扱いにする日付を設定しておくと、指定された日は日曜日と同じタイマー記録動作をします。

休日扱いとする日付をプルダウンメニューで設定してください。設定できるのは最大20日です。

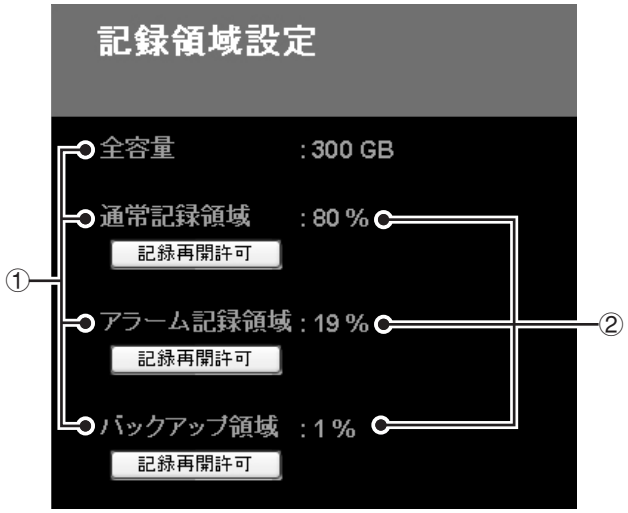


記録設定

（ユーザレベル：ID3）

A 記録領域設定

内蔵ハードディスクの各記録領域の容量割合が表示されます。各記録領域の容量が不足して記録が停止した場合は、［記録再開許可］ボタンの操作により上書きで記録を再開できます。



① 記録領域の容量表示

レコーダーの全記録容量と、レコーダーの「記録領域設定」で設定した各記録領域の容量割合（構成比）が表示されます。ネットワーク操作では変更できません。

記録方法に応じて、各領域に映像が記録（保存）されます。

記録領域	記録方法
通常記録領域	通常記録（手動記録）
	タイマー記録
アラーム記録領域	アラーム記録
	プリアラーム記録
バックアップ領域	コピー（保存）

レコーダーの「ハードディスク設定」で［ミラーリング］が“入”に設定されている場合は、容量の少ない方のハードディスクが表示されます。

②［記録再開許可］ボタン

「記録条件設定」の［上書き記録］設定により表示されます。

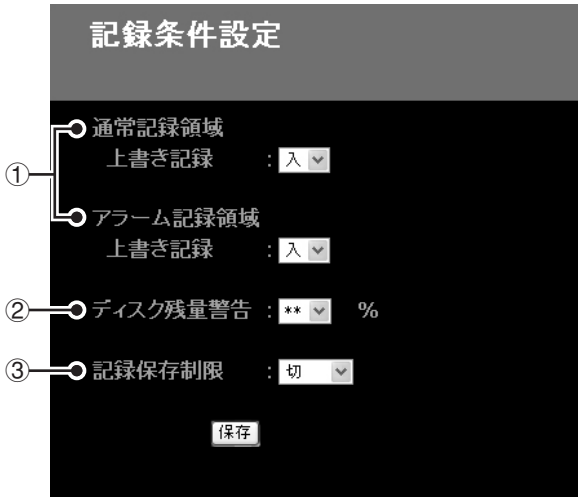
各記録領域の空き容量が不足すると記録が停止しますが、上書きで再度記録を再開する場合はこのボタンをクリックしてください。この操作を“記録再開許可”といいます。

- **通常記録領域／アラーム記録領域**
  ［上書き記録］設定が“切”の場合にのみボタンが表示されます。
- **アーカイブ領域**
  常にボタンが表示されます。

- **通常記録領域とアラーム記録領域は、［上書き記録］を“入”に設定した場合、あるいは各領域の容量の設定が“0%”のときは［記録再開許可］ボタンは表示されません。**
- **［記録再開許可］ボタンで記録を再開した場合の上書き動作は1回限りです。容量が不足すると再び記録が停止します。**
  上書きモードに固定したい場合は、［上書き記録］の設定を“入”に設定してください。
- **通常記録領域とアラーム記録領域は、容量に空きがあると［記録再開許可］ボタンは効きません。**

B 記録条件設定

上書き記録、残量警告の基準値、自動消去機能など、ハードディスクの記録領域に関する管理条件を設定します。



① 上書き記録（初期設定：入）

通常記録領域とアラーム記録領域の上書き記録を設定します。

入：

記録領域が満杯になると、最初の映像から上書きして記録を継続する

通常記録領域／アラーム記録領域の［記録再開許可］ボタンは、「記録領域設定」画面には表示されません。

切：

記録領域が満杯になったらレコーダーの残量警告ランプが点滅して記録を停止する

［上書き記録］を“入”に設定して長時間動作すると、記録領域が満杯になり、古い映像から順番に上書き消去されます。必要な映像は上書きされる前に保存してください。

② ディスク残量警告

通常記録領域とアラーム記録領域の［上書き記録］設定が“切”の場合、各領域の残量が設定値まで減少すると警告ブザーで知らせます。

設定値は通常記録領域とアラーム記録領域の両方に適用されます。

選択数値：1～10%

通常記録領域とアラーム記録領域の［上書き記録］の設定がどちらも“入”の場合は“*”が表示され、ディスク残量警告の基準値設定はできません。**

③ 記録保存制限（初期設定：切）

通常記録領域とアラーム記録領域における記録映像の自動消去機能です。指定の保存期間を超えた画像データは自動的に消去されます。

選択項目：切, 1, 2, 3 ... 99日

1 - 99日：自動消去機能を設定し、画像の保存期間を1～99日の範囲で設定する

切：自動消去機能を設定しない

- **アーカイブ領域は自動消去の対象外です。**
- **自動消去機能を設定した場合は、保存期間を超える前に必要なデータをコピーまたはダウンロードしてください。（P18、19参照）**

C 通常記録設定

レコーダーの通常記録およびタイマー記録の記録条件を設定します。

① 記録画質（初期設定：ENHANCED）

通常記録の画質を設定します。

高画質を選択した場合は、記録時間は短くなります。

選択項目：

BASIC：基本画質

NORMAL：標準画質

ENHANCED：準高画質

FINE：高画質

SUPER FINE：超高画質

画像の精度は“画質×記録レート”によって決まります。高画質で記録レートが速いほど画像精度が高まりますが、画像の精度に比例して多くの記録容量が必要となり、記録時間は短くなります。

② 音声記録（初期設定：切）

通常記録やタイマー記録時に音声も同時に記録することができます。

入： 音声を同時記録する

切： 音声は記録しない

- **音声データは画像と同じ記録領域に記録されますので、［音声記録］を“入”に設定すると記録時間は短くなります。**
- **音声を記録する場合は、記録レートを“1～60FPS”に設定してください。**

③ 記録レート（初期設定：15FPS）

通常記録時の記録レートを設定します。

音声記録が可能な記録レートの前には“A”マークが表示されます。

選択数値：

60, 30, 20, 15, 10, 7.5, 6, 5, 4.286, 3.75, 3.333, 3, 2.727, 2.308, 2, 1.667, 1.429, 1.25, 1.111, 1, 0.5, 0.333, 0.25, 0.2, 0.1, 0.05, 0.033（単位：FPS）

記録レートについて

- **レコーダーに複数のカメラを接続している場合は、接続台数により各チャンネルの記録レートは変動します。**
- **「プログラム記録設定」で各カメラの記録レートを個別に設定した場合は、「通常記録設定」での記録レートの設定はできません。**
- **プリアラーム記録やミラーリングの設定が“入”の場合は、選択可能な記録レートが一部制限されます。詳しくはレコーダー本体の取扱説明書（記録レート設定／プリアラーム録画時間一覧表）をご参照ください。**
- **タイマー記録時の記録レートは、「タイマー設定」で設定してください。（P28参照）**

④ プログラム記録（初期設定：切）

「プログラム記録設定」で設定した記録条件（プログラム番号）を選択できます。（P28参照）

選択項目：切, P-1, P-2, P-3, P-4

切： プログラム記録をおこなわない

接続するすべてのカメラが、この画面の［記録レート］の設定値に基づいて共通の記録レートで記録します。

P-1～P-4：

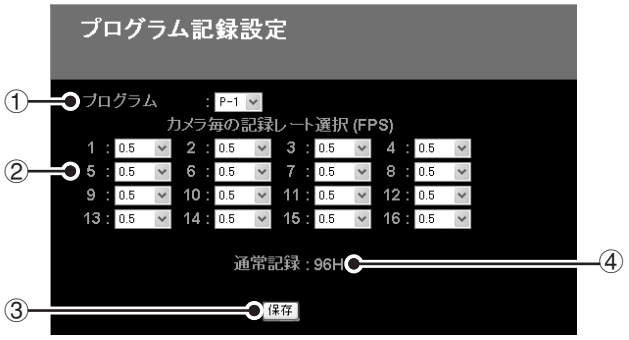
「プログラム記録設定」で設定されたプログラムの記録レートで記録する

⑤ 記録時間

［保存］をクリックすると、設定された記録条件に応じて、記録時間の目安が参考表示されます。

D プログラム記録設定

レコーダーに複数のカメラを接続している場合は、記録する各カメラの記録レートを自由に設定できます。
4パターン（P-1～P-4）のプログラムが登録でき、登録されたプログラムは「通常記録設定」と「タイマー設定」で指定できます。



（16チャンネルモデルの画面例です）

① **プログラム**
プログラム番号を指定します。

選択項目：P-1, P-2, P-3, P-4

② **カメラ毎の記録レート選択**
各カメラの記録レートを設定します。
カメラを接続していても、“切”を選択した場合は映像は記録されません。

選択数値：
切, 30, 15, 7.5, 3.75, 1.875, 1, 0.5, 0.333, 0.25, 0.2, 0.1, 0.05, 0.033（単位：FPS）

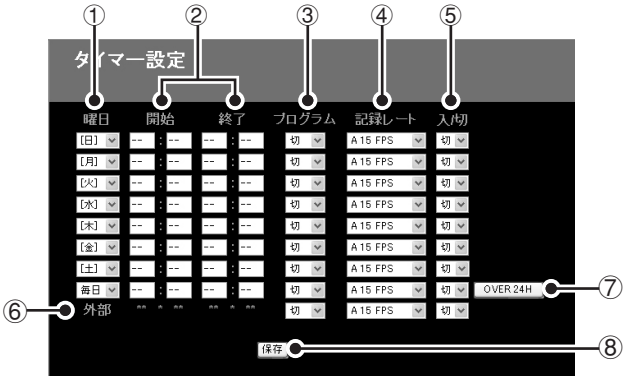
③ **［保存］ボタン**
クリックすると、指定したプログラム番号の設定内容が登録されます。

④ **通常記録**
登録が完了すると、設定された記録条件に応じて、通常記録時間の目安が参考表示されます。

- **レコーダーの機種によりメニュー画面は異なります。**
- **プリアラーム記録やミラーリングの設定が“入”の場合は、選択可能な記録レートが一部制限されます。詳しくは、レコーダー本体の取扱説明書の「記録レート設定／プリアラーム録画時間一覧表（P87）」をご参照ください。**

E タイマー設定

レコーダーのタイマー記録の動作条件を設定します。



① **曜日**
タイマー記録の曜日を指定します。
毎日同じ時間帯にタイマー記録する場合は“**毎日**”に設定してください。

② **開始／終了**
タイマー記録の開始・終了時刻を設定します。

③ **プログラム（初期設定：切）**
「プログラム記録設定」で登録した記録パターン（P-1～P-4）を指定できます。

④ **記録レート（初期設定：15FPS）**
タイマー記録の記録レートを設定します。
［プログラム］を指定した場合は、プログラムで設定した記録レートが適用されます。

⑤ **入／切（初期設定：切）**
“入”を選択するとその行のタイマーが有効になり、タイマー記録動作の対象となります。
いくつかのタイマーを登録しておいて、状況に応じて使い分けることができます。

⑥ **外部**
外部のタイマー機器を接続している場合は③, ④, ⑤を設定します。
外部タイマーからの入力信号によって動作しますので、曜日と開始・終了時刻の設定は必要ありません。

⑦ **［OVER 24H］ボタン**
連続24時間以上のタイマー記録をおこなう場合は、このボタンをクリックすると専用の入力フォーマットに切り換わります。

⑧ **［保存］ボタン**
クリックすると、タイマー設定の内容が登録されます。

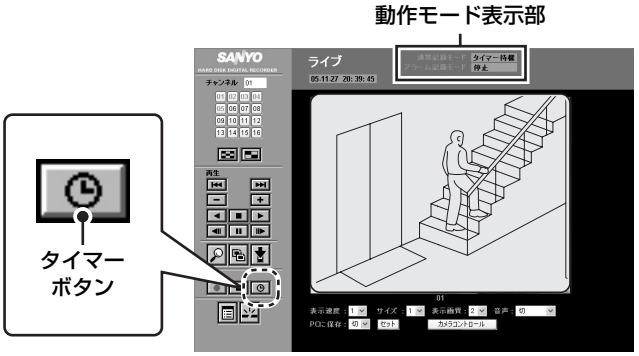
■タイマー設定例

以下のタイマー設定例を参考にして、タイマー記録条件を設定してください。

実際にタイマー記録を動作させるには、操作パネルの をクリックしてください。

タイマー記録の動作中は、動作モード表示部に次のメッセージが表示されます。

- **タイマー待機**
- **タイマー記録**



曜日別にタイマーを設定する

設定例：毎週日曜日の7:30から18:00までの間、30FPSの記録レートでタイマー記録をおこなう

1 タイマー記録条件を設定する

①［曜日］を“日”に設定する
②［開始］を“07:30”、［終了］を“18:00”に設定する
③［プログラム］を“切”に設定する
④［記録レート］を“A30FPS”に設定する
⑤［入／切］を“入”に設定する

複数のタイマーを設定する場合は、同様の手順で他の行にもタイマー記録条件を設定してください。最大8件のタイマー記録が設定可能です。

2 保存 をクリックする

タイマー設定を完了します。

毎日同じ時間帯にタイマー記録する

設定例：毎日10:00から20:00までの間、プログラム“P-1”の記録パターンでタイマー記録をおこなう

1 タイマー記録条件を設定する

①［曜日］を“毎日”に設定する
②［開始］を“10:00”、［終了］を“20:00”に設定する
③［プログラム］を“P-1”に設定する
④［入／切］を“入”に設定する

2 保存 をクリックする

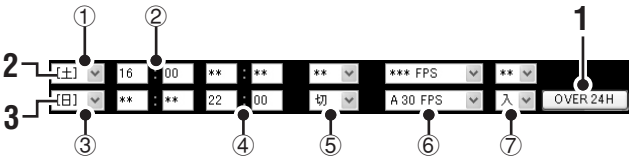
タイマー記録条件の設定を完了します。

連続24時間以上のタイマーを設定する

設定例：毎週土曜日の16:00から翌日曜日の22:00までの30時間、30FPSの記録レートで連続してタイマー記録をおこなう

1 [OVER 24H] をクリックする

下2行（7～8行）が専用の入力フォーマットに切り換わります。



2 上段に記録開始の曜日と時刻を設定する

①［曜日］を“土”に設定する
②［開始］を“16:00”に設定する

3 下段に記録終了の曜日、時刻、および記録条件を設定する

③［曜日］を“日”に設定する
④［終了］を“22:00”に設定する
⑤［プログラム］を“切”に設定する
⑥［記録レート］を“A30FPS”に設定する
⑦［入／切］を“入”に設定する

4 保存 をクリックする

連続24時間以上のタイマーが設定されます。

連続24時間以上のタイマー設定は1件だけです。

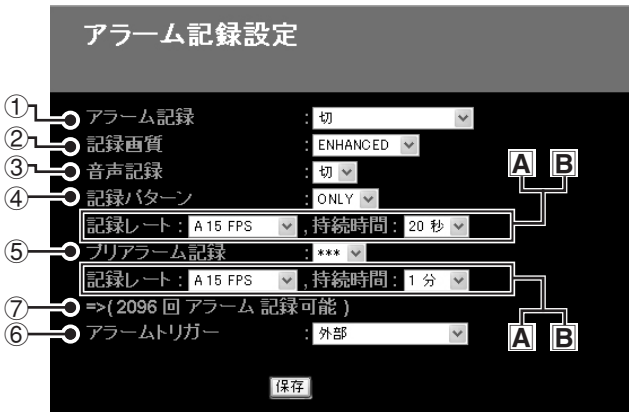
複数のタイマー設定が重複した場合

“曜日タイマー→毎日タイマー→外部タイマー”の順で記録します。

曜日タイマー同士、あるいは毎日タイマー同士で重複した場合は、開始時刻の早い方が優先されます。開始時刻が同じ場合は、設定画面の上の行の予約が優先します。

F アラーム記録設定

レコーダーのアラーム記録とプリアラーム記録の記録条件を設定します。



① アラーム記録（初期設定：切）

アラーム記録の動作モードを設定します。

選択項目：

切：

アラーム記録をしない

入：

タイマー記録の設定に関係なく、常時アラーム記録をする

タイマー中アラーム：

タイマー記録中にのみアラーム記録をする

タイマー外アラーム：

タイマー記録中以外にのみアラーム記録をする

タイマー中アラームのみ：

タイマー記録を設定した時間帯にアラーム記録のみをする
（タイマー記録を設定してもタイマー記録の待機状態にはなりません。）

② 記録画質（初期設定：ENHANCED）

アラーム記録の画質を設定します。

高画質を選択した場合は記録時間は短くなります。

選択項目：

BASIC：基本画質
NORMAL：標準画質
ENHANCED：準高画質
FINE：高画質
SUPER FINE：超高画質

③ 音声記録（初期設定：切）

アラーム記録時に音声も同時に記録することができます。

選択項目：

入： 音声も同時に記録する
切： 音声は記録しない

- **音声データは画像と同じ記録領域に記録されますので、記録時間は短くなります。**
- **音声を記録する場合は、記録レートを“1～30FPS”に設定してください。**

④ 記録パターン（初期設定：ONLY）

レコーダーに複数のカメラを接続している場合の記録パターンを設定します。

選択項目：

ONLY：

アラームを検知したカメラ映像だけを記録する

SW：

アラームを検知したカメラ映像と、他のすべてのカメラ映像を交互に切り換えながら記録する

６チャンネルモデルのCH１でアラームを検知した場合は、次のような記録パターンになります。

１CH→２CH→１CH→３CH→１CH→４CH→１CH→５CH→１CH→６CH

A 記録レート（初期設定：15 FPS）

アラーム記録の記録レートを設定します。

音声記録が可能な記録レートの前には“A”マークが表示されます。

選択数値：

30, 20, 15, 10, 7.5, 6, 5, 4.286, 3.75, 3.333, 3, 2.727, 2.308, 2, 1.667, 1.429, 1.25, 1.111, 1, 0.5, 0.333, 0.25, 0.2, 0.1, 0.05, 0.0333
（単位：FPS）

B 接続時間（初期設定：20秒）

アラームを検知したときの記録時間を設定します。

選択数値：

5秒, 10秒, 20秒, 40秒, 1分, 2分, 3分, 4分, 5分, 10分, 15分, CC

CC：アラームを検知している間のみ記録します。ただし、１アラームで最低５秒間は記録動作をおこないます。

F　アラーム記録設定（つづき）

⑤ **プリアラーム記録**

プリアラーム記録の動作モードを設定します。

選択項目：

入：プリアラーム記録をおこなう

切：プリアラーム記録をおこなわない

アラーム記録の動作モードが“切”に設定されている場合は“＊＊＊”が表示され、プリアラーム記録は設定できません。

A 記録レート（初期設定：15 FPS）

プリアラーム記録の記録レートを設定します。

選択数値：

30, 20, 15, 10, 7.5, 6, 5, 4.286, 3.75, 3.333, 3, 2.727, 2.308, 2, 1.667, 1.429, 1.25, 1.111, 1（単位：FPS）

B 持続時間（初期設定：1分）

プリアラーム記録の記録時間を設定します。

選択数値：

3秒, 5秒, 10秒, 20秒, 40秒, 1分, 2分, 3分, 4分, 5分, 10分, 15分

⑥ **アラームトリガー（初期設定：外部）**

アラーム記録の動作条件（どのような場合にアラーム記録が動作するのか）を設定します。

選択項目：

外部（外部アラーム）：

レコーダー後面のアラーム入力端子に外部のアラーム信号が入力したとき

Mセンサー（モーションセンサー）：

モーションセンサーが画像の動きを検知したとき

外部 AND Mセンサー：

外部アラームとモーションセンサーの両方が同時に反応したとき

外部 OR Mセンサー：

外部アラームかモーションセンサーのどちらかが反応したとき

⑦ **アラーム記録可能回数**

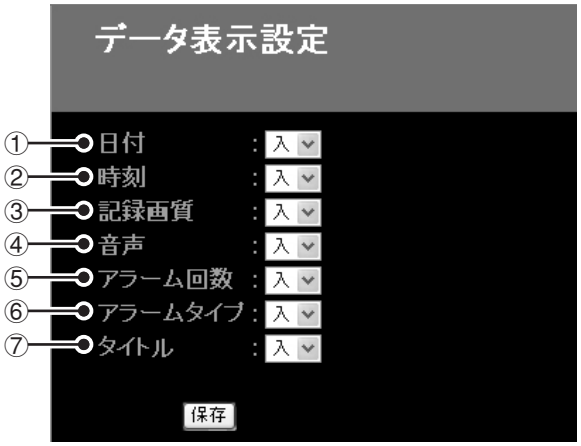
［保存］をクリックすると、設定された条件に応じて、記録可能なアラーム記録の回数が参考表示されます。

一般設定

（ユーザレベル：ID3）

A データ表示設定

レコーダーの接続モニターに表示する情報を選択できます。
コンピュータのメイン画面表示とは関係ありません。



① **日付（初期設定：入）**
ライブ映像では現在日付、再生映像では記録日付が表示されます。

② **時刻（初期設定：入）**
ライブ映像では現在時刻、再生映像では記録時刻が表示されます。

③ **記録画質（初期設定：入）**
記録中または再生中の映像の画質が表示されます。

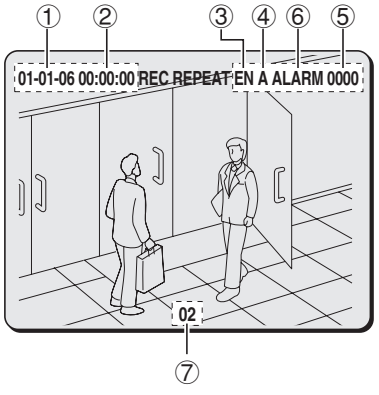
④ **音声（初期設定：入）**
［音声記録］の設定が“入”の場合は“A”マークが表示されます。

⑤ **アラーム回数（初期設定：入）**
アラームの累計件数が表示されます。
レコーダー本体の表示件数は最大9999件で、これを超えるとリセットされ0から再カウントされます。

⑥ **アラームタイプ（初期設定：入）**
アラーム記録は“ALARM”、プリアラーム記録は“PRE”と表示されます。

⑦ **タイトル（初期設定：入）**
カメラタイトルが表示されます。

（レコーダー側モニターでの表示）



B ブザー設定

ハードディスクの容量不足やアラームが発生した場合などに、レコーダー側で警告ブザーを鳴らすかどうかを選択できます。
警告ブザーを鳴らす場合は、“入”に設定してください。

① **アラーム入力（初期設定：切）**
アラームを検知したときに鳴ります。

② **ディスク残量警告（初期設定：入）**
ハードディスクの各記録領域の空き容量が残量警告基準値まで減ったときに鳴ります。（P26参照）

③ **ディスクエラー（初期設定：入）**
ハードディスクに何らかの異常が生じたときに鳴ります。

④ **ロック警告（初期設定：入）**
セキュリティロックが設定されている場合、権限外の操作ボタンを押したときに鳴ります。

⑤ **キーイン（初期設定：切）**
レコーダーの前面パネルの操作ボタンを押したときに鳴ります。

⑥ **VIDEO LOSS／録画停止（初期設定：切）**
VIDEO LOSSが発生、あるいは動作中の記録が停止したときに鳴ります。

通常、コンピュータ側で警告ブザーを鳴らすことはできませんが、コンピュータに音声ファイルを保存するとアラーム発出時にのみ警告ブザーを鳴らすことができます。（P33参照）

■コンピュータでのブザー設定

A アラーム発生時にコンピュータでブザーを鳴らす

1 **コンピュータのCドライブのルートディレクトリに“BUZZER”フォルダーを作成する**

2 **ブザー音の音声ファイルをWAV形式で作成し、“BUZZER.WAV”というファイル名でフォルダーに保存する**

例）C:￥BUZZER￥BUZZER.WAV

以上の設定をすると、アラーム発生時に音声ファイルがコンピュータで再生されます。

- **再生されるブザー音は、音声ファイルの先頭から約１秒間です。この間に有効な音声が入るようにファイルを作成してください。容量の大きな音声ファイルは使用しないでください。**
- **コンピュータのブザーが鳴るのはアラームの発生時だけです。**

B コンピュータのブザーを止める

操作パネルの■（再生停止ボタン）をクリックしてください。

- **コンピュータのブザー設定にかかわらず、アラーム発生時に再生停止ボタンをクリックすると、ブザーが停止します。**
- **映像の再生中にアラームが発生した場合は、再生停止ボタンを２回クリックしないと再生を停止できません。**

C コンピュータのブザーが鳴らないようにする

作成したフォルダー、または音声ファイルを削除するか、あるいはファイル名や保存場所を変更してください。

C ハードディスク設定

レコーダーのハードディスクに関する情報が表示されます。

ミラーリング記録の再生用ディスクも、この画面で指定できます。

① ハードディスクの容量

レコーダーに装着されているハードディスクの全容量が表示されます。ハードディスクを２台搭載している場合はディスク別に表示されます。

② ミラーリング

レコーダーのミラーリング設定（入／切）が表示されます。

ミラーリングとは？

ハードディスクを増設し、同じ映像を２台のハードディスクに記録することをミラーリングといいます。ミラーリングを設定すると、片方のハードディスクで映像の読み書き不良が発生した場合でも、もう一方のハードディスクから正常映像の読み出しが可能になります。

③ 再生用ディスク

ハードディスクを２台搭載している状態で、ミラーリング記録が“入”に設定されている場合は、再生用ディスクを選択できます。

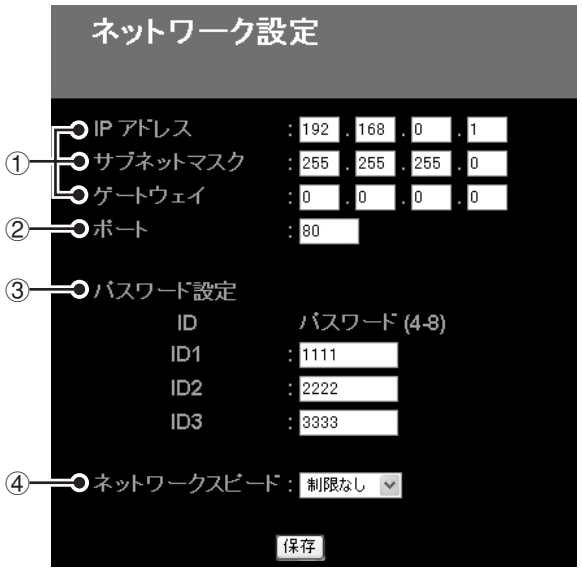
選択項目：ディスク1／ディスク2

ディスクが１台の場合やミラーリング記録の設定が“入”の場合は、［再生用ディスク］のプルダウンメニューは表示されません。

D ネットワーク設定

「ネットワーク設定」は、レコーダーをネットワークに接続する際にあらかじめ設定されています。この画面では、レコーダーの設定をコンピュータから変更することができます。

ネットワーク設定を変更すると、一旦レコーダー操作に切り換わります。再度ネットワーク接続をおこなってください。



① IPアドレス／サブネットマスク／ゲートウェイ

それぞれ、“0～255”の範囲で設定してください。

② ポート

通常は“80”に設定します。

ポートを初期値の“80”以外に設定した場合は、接続時のURL入力の際、IPアドレスの後に“：(コロン)”とポート番号を付け加えてください。

＜ポートを“81”に設定した場合の入力例＞
http://192.168.0.1:81/

③ パスワード設定

認証チェック用のパスワードをユーザレベル別に設定します。入力ボックスにパスワードを入力してください。
設定できるパスワードは４～８桁の半角英数字です。

ユーザレベル		ID1	ID2	ID3
ユーザ名		ID1	ID2	ID3
操作権限				
	ライブ映像のモニタリング	○	○	○
	再生		○	○
	カメラコントロール		○	○
	記録			○
	メニュー設定			○
パスワード（初期設定）		1111	2222	3333

④ ネットワークスピード（初期設定：制限なし）

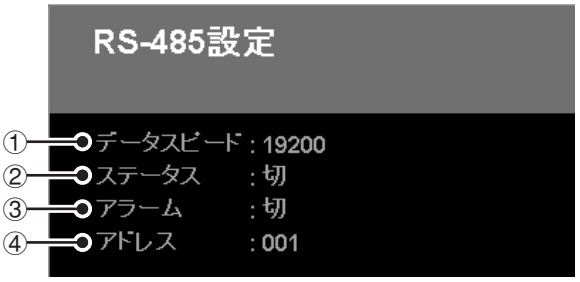
ネットワーク環境に応じてデータの通信速度を設定することができます。

選択数値：
制限なし, 64, 128, 256, 512, 1024Kbps

レコーダーを再起動、あるいはオールリセットすると初期設定（制限なし）に戻ります。

E RS-485設定

レコーダーにシステムコントローラーを接続した場合は、レコーダーで設定されたインターフェース情報が表示されます。



① データスピード（単位：bps）

データの通信速度が表示されます。

② ステータス

ステータス情報の送信状態が表示されます。

③ アラーム

アラーム情報の送信状態が表示されます。

④ アドレス

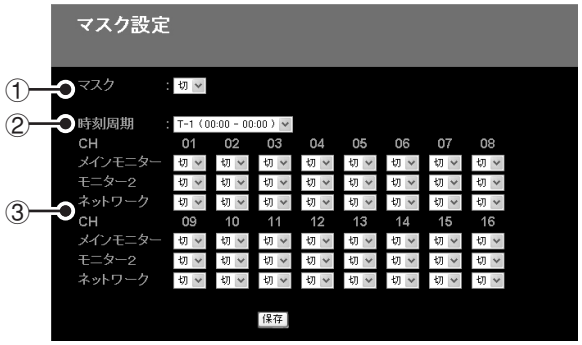
設定されたアドレスが表示されます。

画面設定とレコーダー情報

（ユーザレベル：ID3）

A マスク設定

プライバシーの保護や機密保持のために、ライブや再生映像で指定のチャンネルにグレーパターンを設定することができます。



（16チャンネルモデルの画面例です）

① **マスク（初期設定：切）**

マスク設定を選択します。

“入”に設定すると、メインモニター、モニター2、ネットワーク画面の各チャンネルにグレーパターンを設定できます。

② **時刻周期（初期設定：T-1）**

設定する時間帯を選択します。

選択項目：T-1, T-2, T-3, T-4

“T-1～T-4”の括弧内はレコーダーの「時刻周期設定」で設定された時間帯です。

③ **モニター別マスク指定部（初期設定：切）**

次の3種類のモニターに、グレーパターンをチャンネル別に設定できます。

- **“メインモニター”**とは、レコーダーに接続されたメインモニター画面のことです。
- **“モニター 2”**とは、レコーダーに接続されたスポットモニター画面のことです。
- **“ネットワーク”**とは、ネットワーク操作用のコンピュータのメイン画面のことです。

ネットワーク操作でのマスク設定は、ID1のユーザーに対してのみ有効です。ID2、ID3で接続したユーザーはすべてのチャンネル映像を見ることができます。

B 停電情報／使用時間

レコーダーの停電時間、使用時間とファームウェアのバージョン情報が表示されます。

① **停電情報**

レコーダーの停電回数と最新の停電履歴（発生／復旧日時）が4件表示されます。

② **使用時間**

ディスク別の使用時間と総通電時間が表示されます。

③ **ファームウェア**

レコーダーに現在搭載されているファームウェアのバージョンが表示されます。

C 初期化履歴

レコーダーのハードディスクの初期化および記録再開の履歴の内、最新の8件が表示されます。

初期化履歴
月-日 時:分 領域
11 - 05 18 : 20 通常記録（記録再開）
11 - 05 18 : 19 アラーム記録（記録再開）
11 - 05 18 : 18 バックアップ（記録再開）
11 - 05 18 : 16 通常記録（記録再開）
11 - 05 18 : 15 通常記録（記録再開）
10 - 25 22 : 25 全領域（初期化）
-- - -- -- : -- -----
-- - -- -- : -- -----
①
②

① **月 - 日／時：分：**操作がおこなわれた日時が表示されます。

② **領域：**操作の対象となった記録領域が表示されます。

初期化した場合は“初期化”、記録領域が満杯になって記録再開の操作をおこなった場合は“記録再開”のメッセージが記録領域の後ろに括弧で表示されます。

DVR Viewer2

“DVR Viewer2”は再生専用Viewerソフトです。
レコーダーからコンピュータのハードディスクやコンパクトフラッシュ、CD-Rなどの記録媒体に保存された画像や音声データを再生するときにご利用ください。（対応画像形式はJPEG、対応音声形式はWAVEです。）

■動作環境

ご利用いただける環境は次のとおりです。

- **CPU**：Pentium® IV（2 GHz）以上
- **RAM**：256MB以上（512MB以上を推奨）
- **対応OS**：Windows® 2000/Windows® XP
- **対応機種**：上記のOSが動作するPC/AT互換機
- **ディスプレー**：XGA（SXGA以上を推奨）、カラー65536色以上
- **音声**：DirectXと互換性のあるサウンドカード、スピーカー
- **対応言語**：英語または日本語

■Viewerソフトのインストール

ご利用になる場合は、まず以下の手順でインストールしてください。

1 コンピュータのCD-ROMドライブに付属のCD-ROMを装着する
あるいは、ダウンロードした“DVR Viewer2”を解凍してください。

下記の弊社ホームページから最新のバージョンをダウンロードすることができます。
ホームページアドレス
http://www.sanyo-cctv.net/

2 インストーラーのアイコンをダブルクリックする
インストーラーが起動します。

3 インストーラーの指示にしたがって、インストール先を指定する
インストールを開始します。

4 インストールが終了したら［閉じる］をクリックする
インストールが完了し、“DVR Viewer2”のショートカットアイコンがデスクトップに表示されます。

レコーダーからコンパクトフラッシュやUSBメモリ、CD-R/RWにデータの書き込みをおこなった場合は、“DVR Viewer2”が保存先にコピーされます。

コンピュータに以前のバージョンのViewerソフトがインストールされている場合は、本ソフトをインストールする前に、コントロールパネルの［プログラムの追加と削除］で以前のバージョンを削除してください。

■インターネットオプションの設定

“DVR Viewer2”のインストールが終わったら、Microsoft® Internet Explorerの［ツール］→［インターネットオプション］→［セキュリティ］タブを選択します。
［セキュリティ］設定画面で［レベルのカスタマイズ］をクリックすると［セキュリティの設定］のダイアログが表示されますので、“ActiveXコントロールとプラグインの実行”を“**有効にする**”に設定してください。

■Viewerソフトの起動と終了

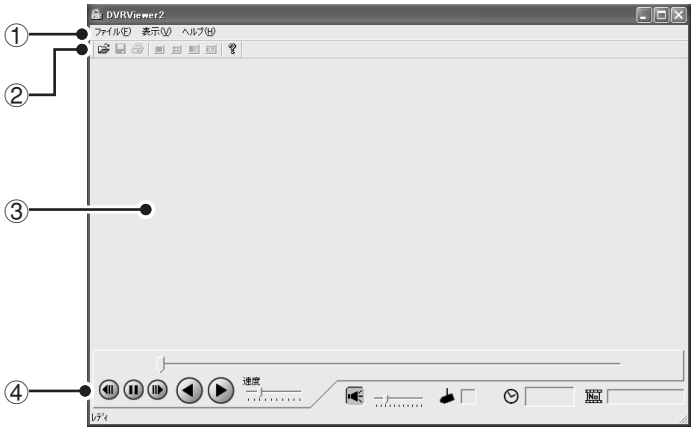
1 DVR Viewer2を起動する
デスクトップのショートカットアイコンをダブルクリックするか、あるいはスタートメニューから［プログラム(P)］→［SANYO］→［DVR Viewer2］→［DVR Viewer2］を選択するとViewerソフトが起動します。

2 Viewerソフトを終了する
ファイルメニューの［終了］をクリックするか、あるいは画面右上の閉じるボタン（×）をクリックするとViewerソフトが終了します。

DVR Viewer2

■画面の構成と各部のはたらき

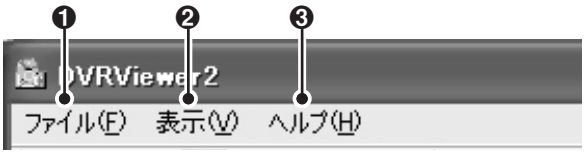
Viewerソフトが起動するとViewerの初期画面が表示されます。



初期画面

① メニューバー

Viewerソフトの基本メニューです。各メニューをクリックすると、コマンドの内訳が表示されます。



❶ ファイルメニュー

開く：
［開く］のダイアログを表示します。

画像の保存：
再生静止画像を保存します。

印刷：
再生静止画像を印刷します。

印刷タイトル入力：
印刷画像のタイトル入力用のダイアログを表示します。

終了：
Viewerソフトを終了します。

❷ 表示メニュー

ツールバー：
ツールバーの表示／非表示を切り換えます。

ステータスバー：
ステータスバーの表示／非表示を切り換えます。

カメラタイトル表示：
カメラタイトルの表示／非表示を切り換えます。

日付表示形式：
日付の表示形式を設定します。(P41参照)

時刻表示形式：
再生画像上の時刻表示位置（右下／右上／左上／左下）を指定できます。

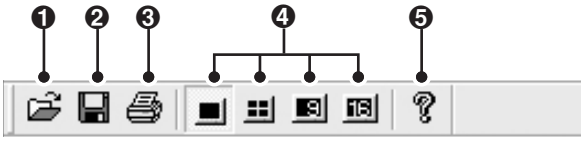
画面：
画面の表示パターン（1画面／4画面／9画面／16画面）を切り換えます。(P39参照)

❸ ヘルプ

Viewerソフトのバージョン情報を表示します。

② ツールバー

使用頻度の高いコマンドボタンが配置されています。



❶［開く］のダイアログを表示します。
❷ 再生静止画像を保存します。
❸ 再生静止画像を印刷します。
❹ 画面の表示パターン（1画面／4画面／9画面／16画面）を切り換えます。
❺ Viewerソフトのバージョン情報を表示します。

③ Viewer画面

読み込んだファイルの画像が表示されます。

画面を右クリックするとコンテキストメニューが表示され、画面の表示パターン（1画面／4画面／9画面／16画面）や表示チャンネルを選択できます。

④ Viewer操作パネル

Viewer画面に表示された画像を再生操作します。
(P40参照)

■画像ファイルを開く

Viewerソフトを起動した時点では、まだ画像は表示されていません。以下の手順で、再生ファイルを指定して開いてください。

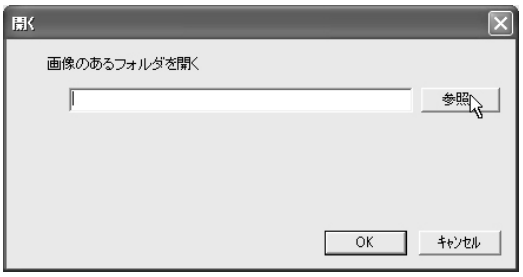
1 ツールバーの をクリックする

あるいは、ファイルメニューの“開く”をクリックしてください。

［開く］のダイアログが表示されます。

2 参照... をクリックする

［フォルダの参照］ダイアログが表示されます。



3 画像が保存されているフォルダを指定して［OK］をクリックする

［開く］のダイアログに指定したフォルダが表示されます。

4 表示されているフォルダを確認して［OK］をクリックする

画像ファイルを読み込みます。

読み込んだファイルの先頭画像が１画面で表示されます。

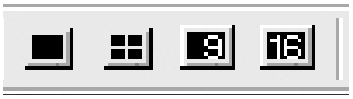
Viewer画面での操作については、該当ページをご参照ください。

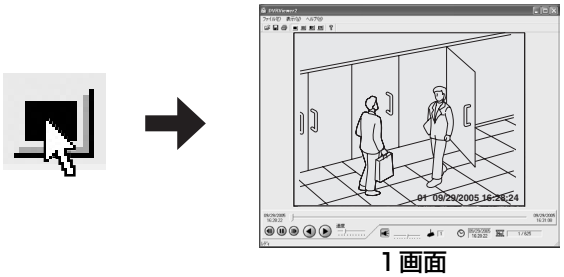
- 再生画像の表示パターン（1画面／4画面／9画面／16画面）を切り換える（P39参照）
- 各画面に表示するチャンネルを選択する（P39参照）
- 操作パネルの機能（P40参照）

■画面の表示パターンを切り換える

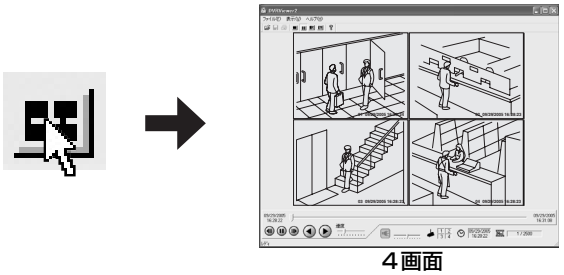
画像の表示パターンは、ツールバーのボタンで、１画面、４画面、９画面、16画面の４パターンから選択することができます。

ツールバー

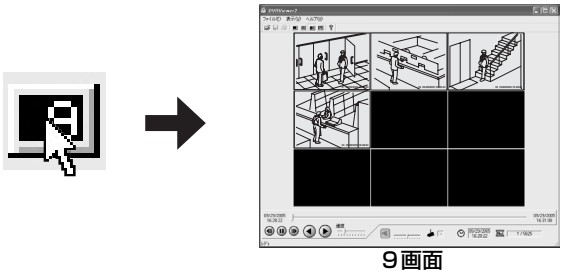




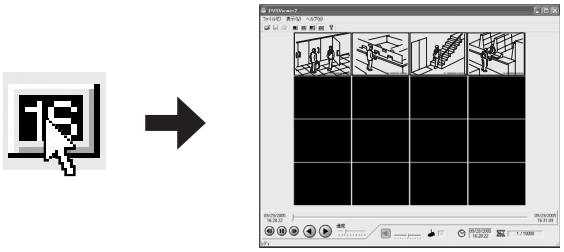
１画面



４画面



９画面



16画面

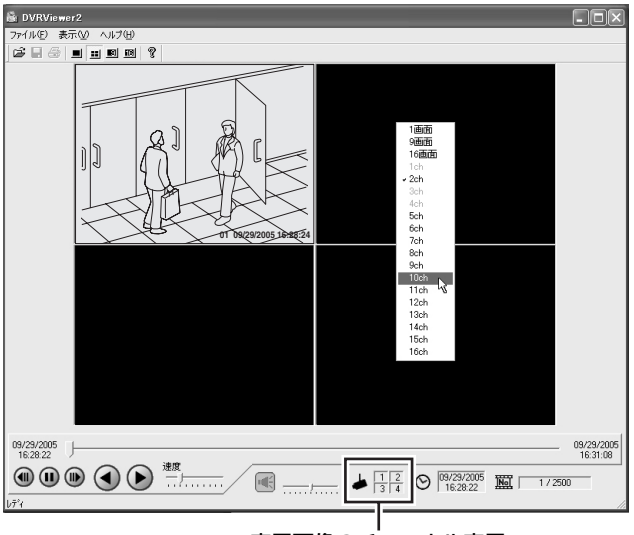
- メニューバー、あるいは画面上に表示されるコンテキストメニューからも表示パターンを選択できます。
- 4画面／9画面／16画面では、指定の画像上でダブルクリックすると１画面表示に切り換わります。
- “PCに保存”の操作では１画面の画像データしか保存されていないため、表示パターンを切り換えることはできません。

■画面に表示するチャンネルを選択する

Viewer画面上で右クリックするとコンテキストメニューが表示されます。コンテキストメニュー上の表示したいチャンネルをクリックすると、表示チャンネルが切り換わります。

1画面／4画面では、表示中のチャンネル番号が操作パネルの［チャンネル］に表示されます。

設定例：４画面の右上の画面に10chを表示させる場合



表示画像のチャンネル表示

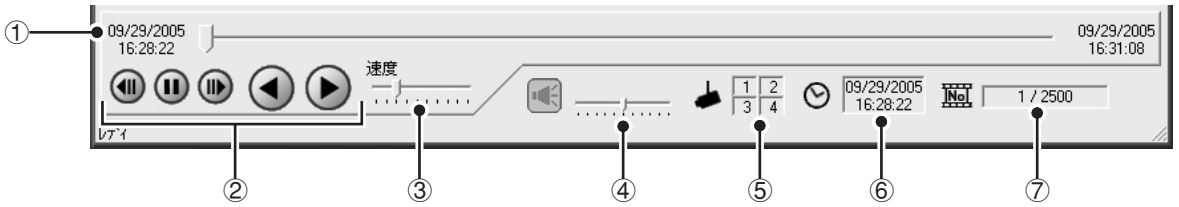
（コンテキストメニュー）

- 指定された画面に現在表示中のチャンネルには、チェックマークが入っています。
  チェックを外すとそのチャンネル画像は表示されなくなりますが、いずれの画面パターンでも最低１つの画像表示が必要ですので、画面上のすべての画像を消すことはできません。
- 画像データが保存されていないチャンネル番号は、コンテキストメニューには表示されません。
- チャンネルは重複して選択できません。
- 各チャンネルの画像は同期して再生されます。表示チャンネルを切り換えても、現在の再生ポイントに画像データがない場合は画像は表示されません。

■Viewer操作パネルの機能

Viewer画面の画像や音声を操作できます。

(Viewer操作パネル)



① 再生スライドバー

スライドバーの両端には、再生ファイルの開始点と終了点の記録日時が表示されます。

スライドバーのノブをマウスでスライドさせると再生ポイントを移動することができます。

- ノブの上でクリック、あるいはクリックしたままスライドさせると、表示画像の画像番号がカーソルの上に表示されます。
- スライドバー上で現在の再生ポイントと異なる位置をクリックすると、全画像枚数の約1パーセント分、再生ポイントが移動します。

② 操作ボタン

選択可能なボタンは黒、現在機能中のボタンはグリーンで表示されます。

: 一時停止中に前の画像にコマ戻しします。

: 再生を停止します。

: 一時停止中に次の画像にコマ送りします。

: スライドバーのノブが開始点より右側にあるときに逆再生します。

: スライドバーのノブが終了点より左側にあるときに通常再生します。

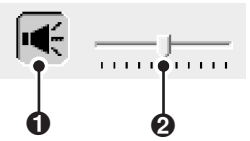
③ 再生速度調整部（初期設定：3）

スライドバーのノブをスライドさせると、再生速度を10段階で調整することができます。

- **再生速度の設定は、再生停止の状態でおこなってください。**
- **音声を再生する場合は、［再生速度］の設定にかかわらず実際の記録レートに基づいて再生されます。**

④ 音声調整部

再生ファイルに音声データが保存されている場合は、音声再生の入／切の切り換えやボリュームの調整などができます。



❶ ボタンのクリックで音声再生の入／切を切り換えます。
切り換え操作は、再生停止の状態でおこなってください。

❷ ノブをスライドさせると、音声のボリュームを10段階で調整できます。

⑤ チャンネル表示部

1画面／4画面では、表示画像の再生チャンネル番号が表示されます。

⑥ 日時表示部

表示画像の記録日時が表示されます。

⑦ 画像番号表示部

“現在の画像番号／全体の画像枚数”が表示されます。

■画像の保存、印刷

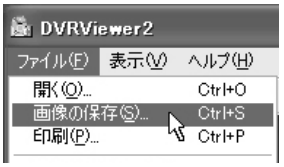
表示中の画像を保存、印刷する場合は、“**1画面表示**”に切り換えてから次の操作をおこなってください。

画像を保存する

ツールバーの をクリック、あるいはファイルメニューの“画像の保存”をクリックする

保存用ダイアログが表示されます。

保存先のフォルダとファイル名を指定して［保存］をクリックすると、Viewer画面の画像が保存されます。

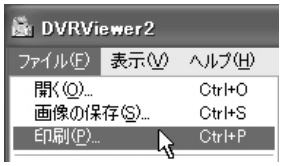


画像を印刷する

ツールバーの をクリック、あるいはファイルメニューの“印刷”をクリックする

印刷用ダイアログが表示されます。

印刷条件を設定し［印刷］をクリックすると、Viewer画面の画像がフルサイズで印刷されます。

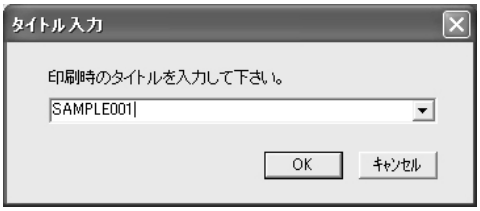


印刷する画像にタイトルを表示する

ファイルメニューの“印刷タイトル入力”をクリックする

［タイトル入力］ダイアログが表示されます。

入力ボックスに印刷時のタイトルを入力して［OK］をクリックすると、印刷時には印刷画像の下にタイトルが表示されます。

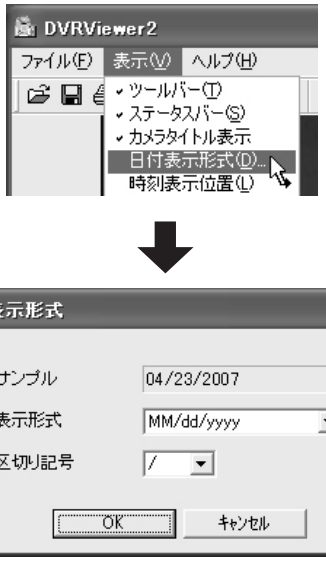


入力されたタイトルは最新の10個が記憶されますので、プルダウンメニューで選択することができます。

■日付の表示形式を設定する

表示メニューの“日付表示形式”をクリックすると［日付表示形式］ダイアログが表示されます。

表示形式と区切り記号を指定し［OK］をクリックしてください。



① **表示形式**

日付の表示順を指定します。

選択項目：

- MM/dd/yyyy（月／日／年）
- dd/MM/yyyy（日／月／年）
- yyyy/MM/dd（年／月／日）

② **区切り記号**

選択項目：/（スラッシュ）、-（ハイフン）、.（ピリオド）

③ **サンプル**

表示形式と区切り記号を変更すると、表示サンプルが指定した形式に更新されます。

メモ

この取扱説明書は、古紙配合率100%、白色度70%の再生紙を使用しています。

1AC6P1P3214--
L8HBK/JP3, L8HBL/JP3, L8HBM/JP3 (0607KP-SY)